

ロジバンいろは

～程よく学ぶロジバン文法～ ver 2.3

2013/03/15

著者 cogas.

～序文～

これは、初学者向けに作られたロジバン(lojban)の学習テキストである。全部で16章からなっている。

ロジバンは LLG というグループによって開発が進められている人工言語である。元を辿れば、サピアウォーフの仮説を実証するために作られたログランという言語がある。ここに詳しくその概要を書かずとも Wikipedia で「ロジバン」と検索すれば、ロジバンの素晴らしさについて事細かに書いている。ぜひ参考にしてもらいたい。

ロジバンの公式文法書として、The Complete Lojban Language (以下 CLL と言う)がある。その日本語抄訳もされつつある⁽¹⁾。正直な話、それを読めばこんなテキストはいらないのだが、あまりの情報量に途方に暮れる人が多いであろう。人間、美味しくないものには飛びつかない。まずは「ロジバンの美味しさ」を知るべきなのだ。このテキストは「ロジバン試食会」でもある。

英語を母国語とする学習者に対しては、Robin Turner と Nick Nicholas によって執筆されたテキスト「Lojban For Beginners」があり、Wikibooks に日本語での要約もある。本テキストはその Lojban For Beginners に取り上げられている項目を基礎としつつ、「諸々の gismu をできるだけ早い段階できちんと使えるようにする」というのを大きな軸にとり、章の構成を変え、また改変を行った。であるから、「豊かな表現」を取り扱うようなテーマは後ろへと回した。確かに心態詞や呼応系などといった項目はロジバンの魅力でもあるのだが…、それよりも「ある程度作文できる」ということのほうが言語としてまず到達されるべき点だと思うのだ。

いくつか注意しておきたいのが、ロジバン文法の際に使われるロジバンの語由来の専門用語である。その使われ方がテキストによって微妙に異なっている。これは諸君の「リテラシー」によってのみ解決される。語学にも「セカンドオピニオン」制度を採用してほしい。

あと、ロジバンは成長しつづけている(他の言語と同様に)ので、最新の CLL とは違った解釈をされつつある語もある。

また、有志によるロジ日辞書がネットにある⁽²⁾。きっと学習の助けになるに違いない。

最後に、このテキストはまだまだ発展途上である。ぜひアドバイスを欲しい。

co' o mi' e cogas.

(1) <http://ponjbogri.github.com/cll-ja/>

(2) <https://docs.google.com/spreadsheet/pub?key=0Aq-6DgnxopzRdER6SmZuakdtSHJQUnBieHNBdlJrdkE&gid=0>

～目次～

- § 1 ～音・アクセント・cmene(名前)～
 - § 2-1 ～関係性と位置～
 - § 2-2 ～sumtiとしての gismu・位の場所を変える～
 - § 3-1 ～命令形、疑問形、所有形～
 - § 3-2 ～否定、抽象詞ことはじめ～
 - § 4-1 ～数、冠詞、数量表現～
 - § 4-2 ～割合・数量表現～
 - § 5 ～時間表現、転換、sumtcita～
 - § 6-1 ～時間—『間制』入門～
 - § 6-2 ～空間—『間制』入門、そしてアスペクト～
 - § 7 ～代 sumti～
 - § 8 ～モダリティ(様相性)＜心態詞ことはじめ＞～
 - § 9 ～引用、抽象詞～
 - § 10 ～句をつくる—語修飾から文修飾まで～
 - § 11-1 ～接続詞—論理的接続詞～
 - § 11-2 ～接続詞—非論理的接続詞～
 - § 12 ～間接疑問文・同等語～
 - § 13 ～なぜ?—原因と結果～
 - § 14 ～合成語(lujvo)・借用語(fu'ivla)～
 - § 15-1 ～心態詞(情感系、認識系)～
 - § 15-2 ～心態詞(談話系)～
 - § 16 ～呼応系・取り消し・その他～
- あとがき—このテキストの今後
- 補遺1 ～cmavo のカテゴリ—selma'o～
 - 補遺2 ～制詞について・sumtcita～
 - 補遺3 ～selbri の前に置く cmavo の順番～
 - 補遺4 ～sumtcita～
 - 補遺5 ～語彙集～

§ 1～音・アクセント・cmene(固有名)～

■音声

・母音

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|------------------|
| a | e | i | o | u | y ⁽¹⁾ |
| ア | エ | イ | オ | ウ | ゥ(曖昧母音) |

・子音

| | | | | | | | | |
|----|------------------|------------------|----|----|-------------------|----|-----|-------------------|
| k | s ⁽²⁾ | t ⁽³⁾ | n | m | i- ⁽⁴⁾ | r | l | u- ⁽⁴⁾ |
| カ行 | サ行 | タ行 | ナ行 | マ行 | ヤ行 | ラ行 | ルア行 | ワ行 |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|----|------------------|----|----|------------------|-------------------|-------------------|-----|-----|-------------------|-----|------------------|
| g | z | d ⁽³⁾ | b | p | c ⁽²⁾ | tc ⁽³⁾ | ts ⁽³⁾ | f | j | dj ⁽³⁾ | v | x ⁽⁵⁾ |
| ガ行 | ザ行 | ダ行 | バ行 | パ行 | シャ行 | チャ行 | ツァ行 | ファ行 | ジャ行 | ヂャ行 | ヴァ行 | ハ行 |

(1) 曖昧母音は、口の力を完全に抜いたときに出したときのような母音。

(2) s は「サ、スイ、ス、セ、ソ」、c は「シャ、シ、シュ、シエ、シヨ」。 si ≠ 「シ」

(3) t は「タ、テイ、トゥ、テ、ト」。(d も同様)、tc は「チャ、チ、チュ、チエ、チヨ」(dj も同様)、ts は「ツァ、ツイ、ツ、ツエ、ツオ」。

(4) i- と u- は、二重母音の一種。 ia = ヤ ui = ウイ

(5) x は、喉で摩擦させる音。日本語のハ行とは違う。タンを出すときの「カアッペツ！」のカアッを掠れさせたような音。

・二重母音 : 2つの連続する母音 (ai, au, ei, oi, i-, u-)。一音で発音する(アイ、アウ、エイ、オイ)。

・アクセント : 後ろから2音節目

・記号

| | | | |
|------------------|------------------------|-----------------------|--------------------|
| ' ⁽⁶⁾ | .(ピリオド) ⁽⁷⁾ | .(カンマ) ⁽⁸⁾ | 大文字 ⁽⁹⁾ |
| ハ行 | 区切り | 二重母音解除 | アクセント |

(6) 日本語と同じハ行。母音と母音の間に入る。例: ei「エイ」→e' i「エヒ」。語頭には付けられない。

(7) 母音で始まる語頭や、cmene の語末につけて、語と語がくっつかないようにする。

(8) 二重母音にしたいくないが、アポストロフィ(ハ行の音)もつけたくないとき。

(9) cmene で後ろから2音節目以外にアクセントをつけたいとき。

■字詞 →自然言語のアルファベットのこと。

「○(子音)y.」、「.(母音)bu」、「.y' y.」(アポストロフィ)

例: sy.(S) .obu (O)

■cmene (固有名) →ロジバン外来語をロジバンに取り入れる方法のひとつ。必ず子音で終わる。

- ①音声通りにスペルを綴る
- ②語尾は子音で終わる(s 付加・n 付加・語尾母音削除等々…)
- ③最後にピリオド

※語頭が h で始まるときは、x や f で代用(アポストロフィは使えない)。

※禁止綴り: la, lai, doi → ly, lyi とかにする。

例)

コウタロウ → koutar. / koutaros. ミク → mik. / mikus.

東京 → tokios. / tokion. ホノカ → xonokas. / fonokas.

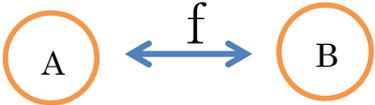
アララギ → × alalagis. ○ alylygis.

■ brid

<日本語>

1. ミクはレンの友達だ。 → 静的な関係を表すときは、名詞「友達」を使う。
2. ミクはレンを殴る。 → 動的な関係を表すときは、動詞「殴る」を使う。
3. ミクはレンよりも背が高い。 → 連体的な関係を表すときは、形容詞「高い」を使う。

AはBと f な関係にある



<ロジバン>

「ミク」と「レン」の間に「ある関係」があるという点で3つの文は共通している。 → その構造に着目
→ 名詞・動詞・形容詞のような区分がなく、同一の品詞が使われる。

- ・文構造の大部分は真偽を問える「命題(proposition)」→ § 8 → ロジバンでは brid という。
- ・関係を表す品詞(日本語の名詞・動詞・形容詞に相当) → brivla(命題語) という。
- ・brivla は、語の形から、さらに3種類に分けられる → gismu(根語) と lujvo(合成語) と fu'ivla(借用語)
- ・gismu ... brivla の中で最も単純な語の種類。5文字からなる。CVCCV や CCVCV (C=子音、V=母音)の形。
(例: dunda、klama、bajra、cliva、nanmu、cinba、...)

■ PS(位構造)

「『ミクはレンを殴る』の主語・目的語は『ミク』『レン』である」 ⇔ 「『ミクはレンを殴る』の sumti は『ミク』『レン』である」
 「『ミクはレンを殴る』の述語は『殴る』である」 ⇔ 「『ミクはレンを殴る』の selbri は『殴る』である」
 → ロジバンでは、命題(brid)は「selbri 部分」と「一連の sumti 部分(項、日本語の主語や目的語)」で構成される。
 = selbri は一連の sumti を「繋ぎとめている」とも言える。

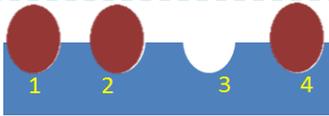


- ・brivla は PS(位構造、place structure)を有する。 = brivla はくぼみのあるブロックに喩えられる。 → そのくぼみに sumti をはめる。
くぼみには番号が振られている → くぼみの場所によって、sumti に与えられる意味が異なってくる。
番号の単位を「位(い)」と言い、前から順に、1位、2位、...となる。
くぼみの数は gismu によって異なる。最大で5個。くぼみの数のことを「位数(いすう)」と言う。



sumti を表現するのに、x1 x2 x3 x4 x5 を使う。

- dunda : x1 は x2 を x3(者)に与える
- klama : x1 は x2(終点)に x3(起点)から x4(経路)を x5(方法)で行く/来る
- nanmu : x1 は男(の人)



まずは覚えておきたい単語

| | |
|----|------------------------|
| mi | 私(話し手) |
| do | あなた(聞き手) |
| la | cmene につける冠詞「~という名のもの」 |

- la ren. nanmu = レンは男だ。
- la mik. dunda la ren. = ミクはレンを与える。
- = la mik. la ren. dunda ≠ dunda la mik. la ren. 「ほにゃはミクをレンに与える」
- ・言う必要のない文末の sumti は省略できる。

→ zo'e : 位を埋めるためのもの。不特定項。重要でなかったり、文脈上明らかだったり。「何がしか」「ほにゃ」
 la mik. dunda = la mik. dunda zo'e zo'e = 「ミクは(ほにゃ)を(ほにゃ)に与える」 → 「ミクは与える」

※selbri を置く位置は文頭を除いて自由 (x1 selbri x2 x3 = x1 x2 selbri x3 = x1 x2 x3 selbri)。

selbri 以前に sumti が無い場合、1位として zo'e が想定される。 → 観察文、§ 2-2

■位の目安 →PSにはいくらか法則がある

- ① 1位は行為者(selbriの主体)が多い
- ② 2位は客体(selbriの目的語)が多い
- ③ 目的地は起点より先にくる
- ④ 基準、方法、原料は後ろのほうにいく

■sumtiとして gismu を使う

le : gismu(厳密に言えば selbri)を sumtiとして使うときの冠詞。「心に浮かべている~と記述されるもの」という意味。(≡the)→§4-1

le ninmu = 「その(心に浮かべている)女性[たち](と記述されるもの)」(実際に女性かどうかには依らない)

子供が以前に見た女性を「赤い服の人だ!」と言うとき、たとえ彼女が今青い服を着ていても、その表現は間違っていない。

話者が、ある対象に相応しいであろう gismu を対応させるときの冠詞が le ということである。

※ロジバンには単複の区別がない。

※ロジバンでは selbri の変化でなく、別途で時制を表現する。→§6 時制表現のない場合、その命題文の時制は文脈に依る。

・cu : 以前の sumti を分離して、selbri の始まりの箇所を示す。〈CU 類〉

le ninmu **cu** klama = 「その女性は行く」

le ninmu klama = 「その女性の行く人」(tanru→§11-1 を形成してしまう)(先行が le+gismu のときは cu を意識する)

cu のように、文法的役割をもつ短い語を cmavo という。
cmavo はいくつかの「~類」というカテゴリに分類される。

■位の場所を変える …2位を飛ばして3位を言うには？

la mik. klama le gusta le panka = ミクはそのレストランへその公園から行く。 → 「ミクはその公園から行く」と言いたいときは？

× la mik. klama le panka = 「ミクはその公園へ行く」 → le panka が 2 位に入ってしまう

→方法としては2つある。

①zo'eを入れておく。

la mik. dunda zo'e la ren. = ミクは(何がしかを)レンに与える。

la mik. klama zo'e zo'e zo'e le karce = ミクは(どこかしらへ)(どこかしらから)(どこかしらを経由し)車を用いて来る。

②位タグを使う。〈FA 類〉

| fa | fe | fi | fo | fu |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1位につなぐ | 2位につなぐ | 3位につなぐ | 4位につなぐ | 5位につなぐ |

直後にくる sumti の位を指定。

位タグに繋がれた sumti の後は、その続きの位を表す(例: ① gismu ② fo ○[④] ⑤)

le ninmu cu dunda le cukta la masaos. = その女性はその本をマサオに与える。

= le ninmu cu dunda **fi** la masaos. **fe** le cukta

la mik. klama **fo** la tokios. le karce = ミクは東京を経由し、車を用いて来る。(le karce は5位となる)

■観察文: 1位の sumti のない bridri のこと。

klama la nago.ias. la .tokios. le dargu le karce = 行く者だ、名古屋へ東京からからその道を通ってその車で!

bridri において、1位の sumti(ほとんどが主体)は大事な要素である。

それを抜くことによって、聞き手にその状況を「観察させ」、1位を埋め合わせようとするのが観察文である。

1位でなく、その selbri について注目してほしい場合もある。 fagri = 燃えている!

■.i : 新しい bridri のサイン(≡「。」)〈I 類〉.i mi prami la mik. .i do xebni la mik. = 私はミクを愛する。君はミクを憎む。

■ 命令形

do を ko にする。「~を実現しろ」

- do dunda le cukta mi 「あなたはその本を私に与える」
- ko dunda le cukta mi 「『あなたはその本を私に与える』を実現しろ」=「その本を私に与えろ」
- la mik. nelci ko 「『ミクはあなたが好きだ』を実現しろ」=「ミクに好かれろ / ミクに媚びを売れ」

・丁寧化 文頭に .e'o をつける。 .e'o ko ctuca mi fo la lojban. = 私にロジバンを教えてください。

■ 疑問文

・一般疑問文 xu をつける(普通、文頭)。xu la ren. prami la mik. = レンはミクを愛しているか。

応答方法:

肯定: 質問文の selbri を繰り返す⁽¹⁾、または、「go'i」 prami / go'i = (さっきの質問に対して) そうだよ。

否定: na + selbri⁽¹⁾、または、「na go'i」 na prami / na go'i = 愛していないよ。

(1) しかし、「xu do prami la mik.」に対して「prami」と答えると、「あなたはミクを愛している」と繰り返すことになってしまうので注意。二人称に対する疑問文への応答は go'i / na go'i を使う。

・特殊疑問文 sumti を尋ねる → その位に ma を置く。selbri を尋ねる → selbri に mo を使う。

例: do nelci ma = あなたは何が好きか。

ti mo = これは何か。

do mo la mik. = 君はミクとどういう関係か(すごく意味の広い質問)。

応答方法:

ma: その sumti の語を言う。「do nelci ma」「le cukta」=「何が好きか」「その本」

mo: その selbri の語を言う。「do mo la mik.」「catra / rirni / prami ...」

=「君はミクとどういう関係か」「殺した/親だ/愛している...」

※他にも、xo (いくつ) → § 4-2、ca ma (いつ) → § 6、pei (どう感じる?) → § 15 などがある。

■ 所有形

「ミクの本」と言うのに、

- ① le cukta pe la mik.
- ② le pe la mik. cukta⁽²⁾
- ③ le la mik. cukta⁽²⁾

po, po'e は pe に内包されている。
独自性や譲渡不可能性を強調したいときのみ使えばよい



(2) 「マサオのミク」と言うときには使えない。

∴ la pe la masaos. mik. や、la la masaos. mik. だと

「マサオのミク」なのか「マサオ・ミクの何か」なのか分からない。同様に、「その女の本」もダメ(× le le ninmu cukta)

端子を使うことで、こういう風に言うこともできるが、冗長だからおすすめしない。

冠詞のいらぬ sumti が所有者のときは、③は簡潔で良い。le mi cukta や、la do mik.

- pe : 二つのモノの間になんらかの繋がりがあることを示す → 「所有」自体は表さないが、事実上表すと思ってよい。〈GOI 類〉
 - po : 所有者がその他に存在しないという「独自の」繋がりを示す。(≡ own) 〈GOI 類〉 ※独自性を強調したい場合に使えばよい。
例: le cukta po la mik. = ミク自身の本 (Miku's own book)
 - po'e : 定義上、誰かに譲ったりすることのできない関係を示す。〈GOI 類〉 例: マサオの心臓、ミクの母親
- ※ たとえば、le bangu pe mi とは言えても、le bangu po mi とは言えない。(「言語」は私独自のものではない)
- ・所有の質問 pe ma を使う。 例: le cukta pe ma = 誰の本? = le ma cukta

■ 否定 selbri の前に置く。一般的な否定「na」の他にも色々ある。

| | |
|------|--|
| na | その bridri を否定する ⁽¹⁾ 。最も単純な否定。 |
| na'e | 直後の語を否定する。否定された箇所に入れるとその bridri が真になるような語が他にあることを示唆。 |
| to'e | selbri と正反対を表す。 |
| no'e | selbri の表す尺度における中立を表す。 |

(1) たとえば、「nelci (好き)」という gismu は「好感度」という程度を扱う。つまり、「好き」の表す尺度は連続的であり、その否定「好きでない」が必ずしもその逆「嫌い」にならない。このとき na は『「好き」に関しては偽だ』とのみ語る。「どうでもいい」のかもしれない「嫌い」なのかもしれない。もしくは『どこにも当てはまらない』かもしれない。

- mi na nelci ro gerku = 「私はすべての犬が好きだ」は真でない = 私はすべての犬が好きというわけではない。
- mi na'e nelci ro gerku = 私はすべての犬に対して「好き」以外の何かだ（「嫌い」かも、「殺す」かもしれない）。
- mi to'e nelci ro gerku = 私はすべての犬を憎んでいる（好きの反対）。
- mi no'e nelci ro gerku = 私はすべての犬について好きでも嫌いでもない。（好きの表す尺度（好感度）において中立）

■ 出来事を表す。＜抽象詞ことはじめ＞

brivla の中には、その PS に「出来事」を sumti として要求するものがある。

denpa : x1 は x2(事)を x3(状態)ながら待つ、x4(事)の開始以前／再開以前に

djica : x1 は x2(事)を x3(目的)のために欲する／求める

cinri : x1(事)は x2 の関心を惹く

tcika : x1(時／分／秒)は x2(事)の、x3(日)・x4(所)における時刻

こういった brivla を使うためには、「出来事」の表し方を知っておかないといけない。→ 日本語でいう「～ということ」が必要。

もちろん、そのまま命題文を突っ込むのはダメ：

× mi djica do prami mi ≠ 「私は君が私を愛するということを求む」（構文が意味不明！）

「do prami mi」という出来事を「出来事」として提示しなければならない。

→ 抽象詞 nu : 「～という出来事」の意。命題文をまとめあげて、それを『出来事化』する。

○ mi djica le nu do prami mi = 「私は君が私を愛するということを求む」

※ nu はただ do prami mi を『出来事化』するだけで、『sumti 化』は行わない。sumti 化は他でもない冠詞(le)の仕事である！

※ 抽象詞には他にも du'u 「～という事実／命題（思考内容）」や sedu'u 「～という言葉（言明）」_{→ §9} がある。

※ 『出来事化』のことを厳密には「抽象化」という。抽象化は命題を selbri 化することである。_{→ §9}

le や nu などの cmavo は、
 連ねて書いても良い。
 (le nu = lenu)

■ 抽象部をぼかす 「僕は君が欲しい」のように「君が具体的に何々することを欲する」と言いたくないときもあるはず。

・co'e : 「抽象部」をぼかす

cinri : x1(出来事)は x2 を惹きつける。

→ 単純に、「君は僕を惹きつける」と言うには…？

→ 出来事の selbri をうやむやにすればよい。

→ lenu do cu co'e cu cinri = 君は何々だから惹きつける。

・tu'a : 「lenu ~ cu co'e」の部分を1語にまとめたもの。

tu'a do cu cinri = 君は惹きつける。

mi djica tu'a do = 君が欲しい。(なんと意味深)

■数字 →数字はロジバンでは cmavo に属し、PA 類と呼ばれる。

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| pa | re | ci | vo | mu | xa | ze | bi | so | no |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 0 |

- ・2桁以上は、その桁をそのまま読む形。(10 = pano, 257 = remuze)
- ・10³ごと(カンマごと)に ki' o を使える。(25,874,123 = remu ki' o bizevo ki' o pareci)
- ・2000 などには ki' o を使える。(2000 = re ki' o, 2000000 = re ki' o ki' o)
- ・小数点は pi (3.14 = cipipavo)
- ・li :「~という数字」という冠詞。(「いち、に、さん」 = 「li pa li re li ci」(pa re ci だと百二十三を表す))

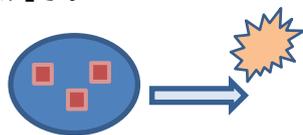
■冠詞

selbri に冠詞をつけることで sumti 化することができる。つまるところ、冠詞とは sumti 化演算子である。大事なのはどの冠詞を使うかによって、その項に対するニュアンスが異なってくるということである。

la mik. dunda → le/lo dunda = 与える者 ≡ la mik.

| | | | | |
|----------|----|-----|-------|------|
| 客観系 | lo | loi | lo' i | LE 類 |
| 主観系 | le | lei | le' i | LE 類 |
| 渾名(あだな)系 | la | lai | la' i | LA 類 |
| | 基本 | 群 | 集合 | |

※ロジバンに単複の区別はない。(あえて表現することはできる)

- ・客観系・・・「ピュア」「客観的」な冠詞。selbri ありのままを sumti 化する。
 lo nanmu = (実際に)男性 lo morsi = (実際に)死んでいる人
- ・主観系・・・「主観的」な冠詞。話者が「その selbri だ」と認識して sumti 化する。
 le nanmu = (実際は知らないが話者からすれば)男性 le morsi = (話者からすれば)死んでいる人
 ※le morsi に注目。彼は「死んだふり」かも「寝ているだけ」かもしれない。それでも le morsi は正当なのだ。
- ・渾名系・・・「ニックネーム」な冠詞。cmene、selbri を「ニックネーム」として使う。
 la nanmu = 「男」さん(男という名の者) la mik. = 「ミク」さん
- ・基本と群・・・四角に着目するのが基本形、丸に着目するのが群。
 ① lo nanmu cu bevri lo pipno
 ② loi nanmu cu bevri lo pipno

 ①では四角—男それぞれ—に着目。男それぞれが「ちゃんと」ピアノを運んでいて初めてこの bridji は真になる。
 ②では丸—男集団—に着目。この集団—誰か一人でも—がピアノを運べばこの bridji は真になる。
- ・群と集合・・・群はあくまでその集団の要素の性質を、集合はその要素全体が呈する性質を表す。
 いわば、群はマイクロな性質をもち、集合はマクロな性質をもつ。
 ① loi ratcu cu barda = ネズミの群は大きい
 ② lo' i ratcu cu barda = ネズミの集合は大きい
 ①はその集団の「個体の」大きさ(体長)について述べている。
 ②はその集団の「集団の」大きさ(要素数)について述べている。

※群の訳は「○○の集団に~なものがある」の方が日本語としては理解しやすいかもしれない。

■数量表現

※PA は PA 類(数字)のこと、broda はいわゆる代 brivla のような gismu であり、selbri のことを指すと思ってよい。

| | |
|------------------------|--|
| lo/le [PA] broda | (客観的に/主観的に)broda な[PA 個のもの |
| la [PA] broda | 渾名が『[PA 個の] broda』なもの |
| loi/lei [PA] broda | (客観的に/主観的に)broda な[PA 個のもの]からなる(客観的/主観的な)群 |
| loi/lei PA sumti | sumti なもの PA 個からなる(客観的/主観的な)群 |
| lo' i/le' i [PA] broda | (客観的に/主観的に)broda な[PA 個のもの]からなる集合 |
| lo' i/le' i PA sumti | sumti なもの PA 個からなる(客観的/主観的な)集合 |

- re lo pano nanmu = (客観的に) 男な 10 人のものうち2人
- re la pano nanmu = 『10 人の男』という名のもの 2 つ
- re loi pano nanmu = (客観的に) 男な 10 人のものからなる群2つつ
- re lei pano le nanmu = (主観的に) 男なもの 10 人からなる(主観的な)群 2 つ分
- re lo' i pano nanmu = (客観的に) 男な 10 人のものからなる集合2つつ
- re le' i pano le nanmu = (主観的に) 男なもの 10 人からなる(主観的な)集合 2 つ分

表の PA は「内部数量詞」と言う。「外部数量詞」もあり、次のような意味がある:

| | |
|----------------|-----------|
| PA lo/le/la | ~のうち PA 個 |
| PA loi/lei | ~な群、PA 個 |
| PA lo' i/le' i | ~な集合、PA 個 |

■割合 fi' u :スラッシュサイン(/)や小数点を使う。特に群冠詞や集合冠詞の外部数量詞に使う。

refi' uci loi prenu = 人口の 2/3 ※refi' uci lo prenu は「人間を 2/3 に切断した部分」というグロテスクなものだ。

pimu le' i pano nanmu = その男の、10 人からなる集合の 0.5 個分 = その男のうち 5 人

■その他の数量表現

| | |
|-------|------------|
| no | どんな~でもない |
| ro | それぞれの/すべての |
| du' e | あまりにも多い |
| so' a | ほとんどすべての |
| so' e | たくさんの |
| so' i | いくつかの |
| so' o | 少しの |
| su' e | 多くても |
| su' o | 少なくとも |

no le ninmu nelci la kaitos. = その女性の誰も、カイトを好きではない。

ro le ninmu na nelci la kaitos. = その女性のすべてがカイトを好きだというわけではない。(na については § 6-2 で詳述)

so' a le prenu nelci la mik. = その人たちのほとんどがミクを好きだ。

lo su' e pano nanmu klama le barja = 少なくとも 10 人の人がそのバーに来る。

■xo :「いくつ?」を尋ねる。

xo le ci nanmu cu prami le ninmu = その3人の男のうち何人がその女性を愛するか。

— re = 2人だ。

do dunda lo xo cukta la mik. = 君は本をどれだけミクにあげたのか。

- so' e = たくさん。
- su' o pano = 少なくとも10冊

・16進数用の数字がある →月表現に使える。

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| dau | fei | gai | jau | rei | vai |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |

■「今、何時ですか？」 = ma tcika ti

tcika : x1(時/分/秒)は x2(事)の、x3(日)・x4(所)における時刻

・ti : 「これ」→「この状況」→「今」

答え方: 24 時間表示で、数字を答える。

11 時 = li papa 20 時 = li reno

・pi' e : ひとつ『単位』を変える(時→分→秒など)。

11 時 23 分 10 秒 = li papa pi' e reci pi' e pano

・pi も使える。 11 時半 = li papa pi mu (= 11.5 時)

■転換 ある位と位を入れ替える。selbri の前に置く。〈SE 類〉

| | | | |
|-------------------|--------|--------|--------|
| se ⁽¹⁾ | te | ve | xe |
| 1 位と2位 | 1 位と3位 | 1 位と4位 | 1 位と5位 |

転換は sumti としての brivla にも使える。

le dunda 与える人 (1 位に着目)

le se dunda 与えるモノ (2 位に着目)

le te dunda 与えられる人 (3 位に着目)

(dunda: x1 は x2 を x3(者)に与える/贈る/授ける)

※se/te dunda という selbri を sumti 化したとも見れる

(1) 1 位は主語が、2 位は目的語がくることが多いので、se は事実上文を受動態にする。

mi dunda le cukta do = 「私はその本を君に与える」

= le cukta se dunda mi do = 「その本は私によって君に与えられる」

lenu mi klama cu se tcika li papa = 私が行くのは11時だ。

■週、月表現(cmene 形)

週 : la ○○(数字)djed. 日曜日 は 0 日目か 7 日目とする。

la padjed. = 月曜日、la cidjed. = 水曜日、la nodjed. / zedjed. = 日曜日

月 : la ○○(数字)mast.

la cimast. = 3 月、la daumast. = 10 月

※上の週・月表現は cmene だが、lujvo の形もある。

■日付を述べる

detri: x1 (日、週、月、年)⁽²⁾は x2(状態/出来事)の x3(場所)で起こった x4 という暦上での日付である。

(2) 数字が 1 つなら日にち、2 つなら日/月、3 つなら日/月/年 を慣習的に表す。

li reci pi' e ze pi' e pasosore cu detri le nu mi jbeno = 23 日 7 月 1992 年は私が生まれた日付だ。

※年だけを表したい → la ○○(数字)nanc.

le nu mi jbeno cu se detri la pasosorenanc. = 私が生まれたのは 1992 年だ。

■sumtcita <ことはじめ> (≒前置詞) selbri に新たな sumti を追加する。sumtcita には gismu 由来のものがある。

ti' u (tcika 由来) = 「～時に起こっている」例: mi klama ti ti' u li papa = 私はここに11時に来る。

de' i (detri 由来) = 「～な日付に起こっている」例: mi viska do de' i li papa = 私は君を 11 日に見る。

■ 終端詞 冠詞や抽象部(≡『』)の閉じを表す。(≡『』)

| | |
|------------------------|-------|
| le,loi のような冠詞 | ku |
| 数字列 | boi |
| 一連の sumti + selbri (節) | vau |
| 抽象部 | kei |
| li | lo' o |

li repa pi'e ze pi'e pasoxaso cu detri lenu lo remna cu klama le lunra

= [[li [repa pi' e ze pi' e pasoxaso boi] lo' o] cu detri [le [nu [lo remna ku] cu klama [le lunra ku] vau] kei [ku] vau]

=「1969年7月21日は人間が月に行った日だ。」

※もちろん、終端詞は文構造が曖昧でなければ省略できる。

※cu には selbri 以前を1位としてそこで区切る終端詞としての強力な役目がある。

※le cukta pe le ninmu は、le le ninmu ku cukta = その女性の本_{→s3} と書ける。

■ 時制その① 間制詞(ba,pu,ca)を selbri の前に置く。〈PU 類〉

| | | |
|-----|-----|-----|
| ba | pu | ca |
| 未来に | 過去に | 現在に |

mi ba dunda le cukta la mik. = 未来に、私はその本をミクにあげる。

la kaitos. pu prami la mik. = カイトはミクを愛した。

■ 時制その② 間制詞を sumtcita のように使う。終端子は ku

| | | |
|-------|-------|-------|
| ba~ku | pu~ku | ca~ku |
| ~より後に | ~より前に | ~と同時に |

ba lenu la mik. cliva kei⁽¹⁾ la ren. klama le barja = ミクが去った後に、レンがバーに来た。

(1) nu の終端詞である kei を使っても ba の適用範囲(下線部)は特定できるから問題ない。

pu lenu la mi cliva kei do klama le barja = 私が去る前に、君は来た。

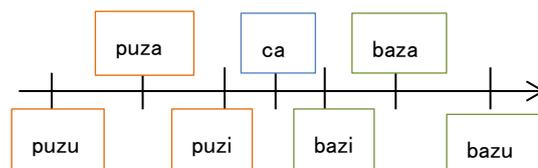
※実際、終端子をしっかり書かならば、ba lenu la mik. cliva kei ku ku や、pu lenu la mi cliva kei ku ku となる。

※中の sumti を省略すると(baku, puku, caku)、「今現在」より「後/前/同時」を表す。

→ baku = 今より後に(=「未来に」)、 puku = 今より前に(=「過去に」)、 caku = 今と同時に(=「今に」)

例: puku mi dunda le cukta do = 過去に、私はその本を君に与えた。

※caku ma tcika = ma ca tcika = 「今、何時ですか？」の別表現



■ 時間距離と期間 ba,pu,ca のあとに付け加える。〈ZA 類〉〈ZEhA 類〉

| | | | |
|----|------------|-------|-----|
| zi | 少し向こうの時点 | ze' i | 短期間 |
| za | しばらく向こうの時点 | ze' a | 中期間 |
| zu | 遠くの時点 | ze' u | 長期間 |

bazi lenu la mik. cliva kei mi klama le barja = ミクが去ったちょっと後に、私はそのバーに来た。

mi puzize' u bajra = 私はちょっと前に長時間走った。(barja と bajra を混同せぬよう！)

※程度は主観的なもの→zu は電車に乗り損なったときは「数分前」の意だろうし、考古学の話のときは「数億年前」の意だろう。

一連の語セットには
 ・-a, -e, -i, -o, -u (fa, fe, fi, fo, fu など)
 ・-i, -a, -u (vi, va, vu, zi, za, zu など)
 という母音パターンが多い。

■空間の制 時制と同じで2通りの方法がある。時制と空間の制を合わせて「間制」と呼ぶ。〈VA 類〉

| | | |
|---------|-----------|----------|
| vi ~ ku | va ~ ku | vu ~ ku |
| ~と同じところ | ~の少し遠いところ | ~から遠いところ |

※時制同様、viku, vaku, vuku は、「ここで」「そこで」「あそこで」となる。

※もちろん、距離の程度は主観的なものである。

mi vi bajra = 私はここで走る。

vi la paris. mi gunka = パリ(=パリと同じところ)で私は働く。

vu le mi zdani mi gunka = 自宅から遠いところで私は働く。

va lenu la mik. gunka kei mi gunka = ミクの働く場所から少し遠いところで私は働く。(kei を忘れないこと)

| | | |
|----------|----|----|
| ついでに指示語も | | |
| ti | ta | tu |
| これ | それ | あれ |

■空間の方向 空間距離(vi,va,vu)の直前に付け加える・単独使用 〈FAhA 類〉

| | | | | | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| bu' u | ri' u | zu' a | ca' u | ti' a | ga' u | ni' a | ne' a | ne' i | ru' u |
| まさにその地点で | 右に | 左に | 前に | 後ろに | 上に | 下に | の隣に | 中で | の周囲に/を包囲して |

mi sanli ri' u vi la mik. = 私はミクのすぐ右に立っている。

la mik. zu' avi ca' uva plipe = ミクは[左][短距離][前][中距離]跳ぶ = ミクは(私からみて)ちょっと左の前向こうでジャンプする。

■mo' i : 移動を表す間制詞。 le nixli ca' uvu mo' ine' i klama lo gusta

= その少女は(私から見て)ずっと前向こうで、レストランの中へ入っていった。

■時制と空間制を連ねて書いてよい → 時制を先に書く

mi puzuze' uvi gunka = 私はここで昔長い間働いていた。

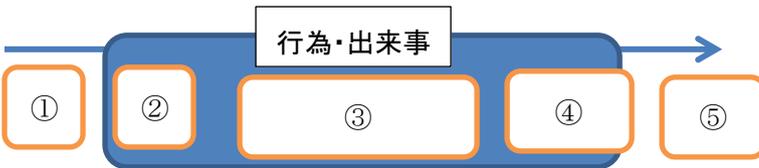
■時と場所の疑問 : ca ma = いつ? vi ma = どこ?

zdani do vi ma = あなたの家はどこか。

ca ma do klama le barja = いつ君はそのバーに行くのか

■時間の相(アスペクト) 行為・出来事には「始まり」「最中」「終わり」が必ずある。相制詞という。〈ZAhO 類〉

※相と時制はまったくの別物。



| | | |
|---|--------------------------------|----------------------|
| ① | その行為をするところ | pu' o |
| ② | その行為のちょうど始まったところ | co' a |
| ③ | その行為の最中 | ca' o |
| ④ | I.その行為を中断するところ II.その行為を完了するところ | I : co' u II : mo' u |
| ⑤ | その行為を既にし終わっている | ba' o |

cfari : ~が始まる
mulno : ~が終わる
sisti : ~が~を止める
という gismu もある。

mi ba' o tavla le mikce = 「医者とはもう話した」「医者とはもう話したところだった」「医者とはもう話したことになる」

mi ca' o tavla le mikce = 「医者と話している最中だ」「医者と話しているところだった」「医者と話しているところになる」

mi pu' o tavla le mikce = 「これから医者と話すところだ」「これから医者と話すところだった」「これから医者と話すところになる」

■さまざまな代 sumti : 以前に出てきた sumti を繰り返す

①le go'i : 前文の1位を指す。

le ninmu prami do .i le go'i xebni mi = その女性は君を愛する。彼女は私を憎む。

②ri : 直前の sumti を指す。⁽¹⁾

le ninmu viska le nanmu .i ri melbi = その女性はその男性を目にする。それ(=その男性)は美しい。

(1)①語・節の始まりをカウントする。(ri は辿っていった最初に出会う冠詞の sumti を参照する)

lenu lo nanmu cu dotco kei cu se djuno ri = 男がドイツ人であることを、男自身は知っている。

②ri 自身が属している sumti を参照することはできない。

la kaitos. pinxe le ri vanju = カイトは自分のワインを飲む。

※①に従えば、le vanju を指しそうだが、ri は今回 le vanju に属しているため、指すことはできない。

③割り当ての goi : 「以下、甲とする」のように、ko'a～fo'u を sumti に割り当てていく。

ko'a ko'e ko'i ko'o ko'u fo'a fo'e fo'i fo'o fo'u 「甲」「乙」「丙」「丁」「戊」「己」「庚」「辛」「壬」「癸」

le ninmu goi ko'a catlu le nanmu goi ko'e .i mi prami ko'a .i mi xebni ko'e

= その女(ko'a とする)はその男(ko'e とする)を見た。私は彼女を愛している。私は彼を憎んでいる。

④da de di : 変項 x,y,z のようなもの。「ある x が存在し～」「 $\exists x \sim$ 」「とあるもの・とある人」

la mik. cinba da = (ある x が存在し、)ミクは x にキスをした。= ミクはとある人にキスをした。

da nanmu i. mi catlu da = (ある x が存在し、) x は男である。私は x を見た。= 私はとある男を見た。

⑤zo'e : 不特定項。「何がしか」。その位の sumti が重要でなかったり、文脈上明らかだったりするときに使う。

⑥イニシャルを繰り返す : le ninmu klama le bajra .i ny. catlu do = その女性はそのバーに行く。彼女は君を見る。

※イニシャルでないアルファベットを使うときは、goi による割り当てが必要。le ninmu goi by. = その女性(以下 b)

■人称代 sumti →英語の「you」(君・君たち)、「we」(我々)よりも正確な表現が行える。

| | | | | | |
|--------------------|----------------------|------|---------------|----|---------------|
| do | あなた | mi'o | 聞き手と私のみ | mi | ひとり以上の話し手・代表者 |
| rodo | あなたたち | mi'a | 私と他人たち(聞き手以外) | | |
| do'o | あなたと他の皆 | ma'a | 聞き手と私と他人たち | | |
| roda / ro le prenu | 一般的な人 ⁽¹⁾ | | | | |

(1) 省略可。

■再帰代 sumti その bridi 中の sumti をくり返す

| | | | | |
|------|------|------|------|------|
| vo'a | vo'e | vo'i | vo'o | vo'u |
| 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |

le ninmu nelci vo'a = その女性は自分が好きだ。

・～ soi A B : 「～の A と B を入れ替えても真である」=「逆もまた然り」

mi prami do soi mi do = mi prami do soi vo'a vo'e = 私は君を愛しているし、逆もまた然りだ。

※直前の sumti を A とできる。

la mik. prami le mlatu soi vo'a = ミクはその猫を愛しているし、逆もまた然りだ。(soi 後の le mlatu が省略できる)

転換を用いて、次のように言える。

le se go'i : 前文の2位

le te go'i : 前文の3位 etc

§ 8～モダリティ(様相性) <心態詞ことはじめ>～

■モダリティ: 話している内容に対する話し手の判断や感じ方を表す言語表現

文は、命題(bridj)部分とモダリティ部分に分けられる。

<日本語> コウタロウは来るかもしれない。 → コウタロウは来る(命題) + かもしれない(モダリティ)

<英語> Kotaro may come here. → Kotaro come here.(命題) + may(モダリティ)

■心態詞ことはじめ

心態詞→§ 15 : 感情・気持ちを表す語。「嬉しい!(^o^)」とか「怒(-#)」といった感情表現や、モダリティを表す語など。

・心態詞はその先行の語に係る。文頭に置いたときは、.i-文全体に対する感情表現一となる。

.iu la mik. klama = ミクが来る(愛) ≡ミクが来るということに対して愛を表現している。

la mik. .iu klama = ミク(愛)が来る ≡ミクに対して愛を表現している。

※モダリティは文に対する感情表現なので、そういった心態詞は文頭に置かれる。

| | | | |
|----|----------------------|------|--|
| 可能 | ～できると思う/～を私は実現できると思う | .e'e | .i.e'e mi sidju ko'a = 僕は彼を助けられると思う。 |
| 許可 | ～してもよい | .e'a | .i.e'a do vi bajra = 君はここで走ってもよい。 |
| 提案 | ～しましょうか、～してはどうでしょう | .e'u | .i.e'u mi'o klama le barja = そのバーに行きませんか。 |
| 義務 | ～しなければならない | .ei | .i.ei mi cilre = 私は勉強しなくてはならない。 |
| 意図 | ～するつもりだ | .ai | .i.ai mi denpa = 私は待つつもりです。 |
| 希望 | ～だといいなと思う | .a'o | .i.a'o la mik. nelci mi = ミクは私を好きだったらいいな。 |
| 願望 | ～したい | .au | .i.au mi sipna = 眠りたい。 |
| 信念 | ～だと信じている | .ia | .i.ia la mik. prami ko'a = 絶対、ミクは彼のこと好きだと思う！ |

| | | | |
|----|------------------|------|---|
| 予期 | 予期するに/多分 | ba'a | .i.ba'a ko'a klama = 多分あいつは来る。 |
| 伝聞 | 聞いたところによると/だそうだ | ti'e | .i.ti'e ko'a na nelci la mik. = あいつはミクのこと好きじゃないらしい。 |
| 観察 | 観察したところ/見るに/のようだ | za'a | .i.za'a do bilma = 調子悪そうだな。 |
| 思考 | 考えたところによると/私見では | pe'i | .i.pe'i le cukta cu na xlali = あの本は粗末だと思う。 |
| 想定 | 想像するに/思うに | ru'a | .i.ru'a la koutaros. ba'o cliva ti = コウタロウはもうここを去ったと思う。 |

| | | | |
|-----|--------|------|--|
| 可能性 | もしかすると | la'a | .i.la'a ko'a nelci mi = 彼は私のことを好きなのかもしれない。 |
|-----|--------|------|--|

※3つの表のうち、1つ目は UI1 に、2つ目は UI2(認識系)に、3

※心態詞は連ねることもできる。

■心態詞の強弱・意味を決める — CAI 類 (nai は NAI 類)

cai > sai > 無 > ru'e > cu'i > nairu'e > nai > naisai > naicai

| | | | | |
|-----|------|------|-----|-------|
| nai | cu'i | ru'e | sai | cai |
| 逆 | 中立 | 弱い | 強い | とても強い |

※cmavo 辞書を見て、しっかり意味を確認すること。個人の解釈が公式の解釈と違う場合も多々ある。

.e'anai = 禁止(してはいけない)

.e'anai do sipna = 寝てはいけない。

.einai = 自由(しなくてもよい)

.einai do ca cilre = 今は勉強しなくてもいいよ。

.eiru'e = 弱い義務(した方がいい)

.eiru'e do cliva le barja = バーを去った方がいい。

.aicu'i = 優柔不断(するかどうかわからない)

.aicu'i mi te vecnu ti = これ買おうかなあ…

.aucai = 渴望(とてつもなくしたい)

.aucai mi penmi do = ああ！君に会いたい！！

la'anai = ありえない

.la'anai ko'a prami ko'e = 彼が彼女を愛してるなんてありえない

■引用 人のセリフを伝えるには、A.そのままのセリフを伝える B.セリフを同内容の文に直して伝える の2つがある。

・直接引用→これ自体で sumti として使える。

① 文引用: lu - li' u (いわゆるカギ括弧「」)

la mik. pu cusku lu do pu cusku lu coi li' u mi li' u = 「君は私に『やあ』と言った」とミクは言った。

② 部分引用: lo' u - le' u

lo' u la mik. pu le' u = 『ミクは[過去]』の部分

③ 語引用 : zo (1語しか引用しないので、終端子はない)

zo zo = 「zo」という語

・抽象詞を用いた引用 抽象詞 sedu' u (言明内容)「～という言明文」を用いる。

la mik. pu cusku le sedu' u do pu rinsa la my. = ミクは君がミクに挨拶をしたと言った。

■抽象詞<NU 類> bridu を「抽象化」して selbri 化することができる。→普通は冠詞(le)をつけて sumti として使うことがほとんど。代表的なものを挙げる:

| | | |
|-------------------------|-------------|--------------------------------------|
| nu | 出来事(event) | x1 は(ブリディの内容)という出来事である |
| du' u ⁽¹⁾⁽²⁾ | 事実 (fact) | x1 は x2 の文によって表現された(ブリディの内容)という事実である |
| ka ⁽³⁾⁽⁴⁾ | 性質(quality) | x1 は(ブリディの内容)という性質である |
| ni | 量(quantity) | x1 は x2 の物差しで測った場合の(ブリディの内容)の量である |

※もちろんこれらを sumti として使うときは、冠詞(le)をつければよい。

le nu klama = 誰かが何処かに何処かから何らかの経路で何らかの手段で行く出来事

※抽象部の sumti は文脈上読み取れるのであれば省略して構わない

mi nelci lenu limna = 私は泳ぐことが好きだ。 ⇨ mi nelci lenu mi limna (= 私は私が泳ぐという出来事が好きだ。)

(しかし、ミクが泳いでいるのを眺めながら mi nelci lenu limna と言えば、それは mi nelci lenu la mik. limna ともなりうる)

※ § 3で触れたばかりし表現も参照。

(1) le du' u ~ は「知っている・信じる・知る」などに使われる。

la mik. na djuno le du' u le nanmu prami my. = ミクは、その男がミクのことを愛しているということを知らない。

(2) le se du' u ~ は「～という内容を表現する文」という意味になる。

la mik. cusku le sedu' u la ren. klama le zarci = ミクはレンが店に行くという内容を表現する文を言う。

= ミクはレンが店に行くと言う。

(3) bridu から抽出できる「性質」は複数ある。

le ka mi prami = 私が何がしかを愛するという性質 ⇨ 私の愛情

le ka prami mi = le ka mi se prami = 何がしかが私を愛するという性質 ⇨ 私への愛情

(4) le ka prami は「何がしかの愛情」なのか「何がしかへの愛情」なのか曖昧。→ce' u を使うことで意味を明確化できる。

le ka ce' u prami = 「(何がしかの)愛情」、 le ka prami ce' u = 「(何がしかへの)愛情」

le nanmu krici le du' u la mik. klama le barja = その男はミクがそのバーにくると信じている。

le ni le pixra cu blanu = その絵が青いということの量 = その絵に含まれる青さの量

le pixra cu cenba le ni ce' u blanu = その絵は、青いことの量の点で変化する。 = その絵は青さが変化する。

la mik. cu ckaji le ka se risna = ミクには心臓を持っているという性質がある。

le ka ti xunre cu cnino mi = それが赤いという性質は私にとって新しい。 = その赤さは私にとって新しい。

§ 10～句をつくる—語修飾から文修飾まで～

pe は、ある sumtiA と sumtiB に関係性があることを言う → A にとって B がどのような関係であるかは言及されていない。

le jdini pe mi は「私の(所有する)お金」であって、「私の(作った)お金」を意味することは(文脈上)ほぼないが・・・

→しっかりと区別することはできるだろうか？

sumtiとして使われている brivla の PS(位構造)を使うには単に並べるだけではダメ。

× le mensi mi dunda le cukta ≠「私にとっての姉妹はその本を与える」

「mi」が dunda の 2 位になってしまい、「その姉妹は私をその本に与える」となってしまう。

→その sumti (今回の場合だと mi) が、sumtiとしての brivla(今回だと mensi) につながっていることを示さなければならない。

■ be を使うことで、ある sumti が sumtiとしての brivla につながっていることを示すことができる。

- le renas. mensi mi = レナは私にとって姉妹だ。
- ⇒ le mensi be mi = 私にとっての姉妹 (mi は mensi の 2 位を取っている)
- le te dunda be le cukta = その本の受け取り人 (le cukta は te dunda の 2 位「与えられるモノ」となっている)

・3位以降の sumti を補足する → fa 類(fa fe fi fo fu) を使う → §2

- la mik. klama fi la tokios. = ミクは東京から来る。
- ⇒ le klama be fi la tokios. = 東京から来る人 (fi が無かったら、「東京へ来る人」になる)

・複数の sumti を補足する → 2 丁目以降は bei を使う (終端子は be' o)

- la mik. klama le jarbu be la tokios. ⇒ le klama be le jarbu be la tokios. = 東京の郊外へ行く人
- la mik. klama le jarbu la tokios. ⇒ le klama be le jarbu bei la tokios. = 東京から郊外へ行く人

・sumtcita によって sumti を補足する

- selbri につなぐとき → be + [sumtcita] le klama be ti' u li papa = 11 時に来る人
- cmene につなぐとき → pe + [sumtcita] la mik. pe ne' a mi = 私の隣のミク

■bridi 修飾(関係詞) sumti を bridi によって補足する。

限定用法 poi - ku' o

非限定用法 noi - ku' o

・ke' a : 関係詞専用の代 sumti → sumtcita 以外の位では省略可能(読解上、初めて sumti の抜けている部分が ke' a)

le cukta poi mi te pu vecnu (ke' a) ku' o cnino = 私が買った本は新しい。(te vecnu : x1 は x2 を買う)

la mik. noi mi pendo (ke' a) ku' o klama ti = ミク—私の友達なのだが—は、ここに来る。

■pe と ne

今までにも出てきた → §3 「pe」は、実際は制限用法であり、「～の方の」という意味に近い。

補足的な「～の」という意味(つまり非制限用法)には「ne」を用いる。

mi nelci le nanba pe le va zarci = 私はあそこの店のパンが好きだ。

mi nelci la kojonotsukis. ne la takis. rentaros. = 私は滝廉太郎の「荒城の月」が好きだ。

§ 11-1 ~ 接続詞—論理的接続詞—

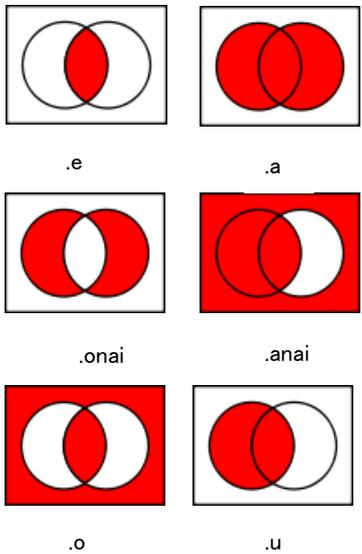
まず論理的な接続詞を学ぶ。

| | |
|-------|----------------|
| .e | そして(論理積) |
| .a | または(論理和) |
| .onai | どちらかのみ(排他的論理和) |
| .anai | ~だ、~ならば |
| .o | ~だ、~の場合のみ |
| .u | ~だ、~であろうとなかろうと |

接続詞の否定 → § 11-2:
前者を否定 na + ○
後者を否定 ○ + nai

~だ、~ならば には sumtcita も使う

| | |
|--------|----------|
| va'o | ~という条件で |
| seja'e | ~の結果として |
| fau | ~が起こるときに |
| ni'i | 論理的に~なので |



■ sumti 同士をつなぐ

A □ B klama le barja → 命題 P「A はバーに行く」と命題 Q「B はバーに行く」のそれぞれが真かどうかを述べる。

| | | |
|-------------------|-------------------|----------------------|
| .e ⁽¹⁾ | そして(論理積) | P も Q も真である |
| .a | または(論理和) | P か Q の少なくともどちらか一方は真 |
| .onai | どちらかのみ(排他的論理和) | P か Q のどちらかのみが真 |
| .o | ~だ、~の場合のみ/同値(iff) | P は、Q が真のときのみ、真 |
| .u | ~だ、~であろうとなかろうと | P は、Q が真だろうとなかろうと、真 |

(1)「A と B」というグループがバーに行くと言いたいならば、joi を使う: A joi B klama le barja

mi klama le barja .e le zarci = 私はバーにも店にも行く。

mi nelci le barja .o le zarci = 私は店に行くときのみ、バーに行く。(店に行かないときはバーに行かない)

■ tanru (重ね語) selbri を連ねることができる。 xunre cukta = 赤い本だ

・左の selbri から順に隣へ隣へとかがっていく。

le barda xunre cukta = 「その大きいような赤、そのような本」(意味不明)

⇒ le barda je xunre cukta = 「その大きくて赤い本」とすればよい。

・tanru 内の selbri 同士をつなぐ → j + ○ (ja, jonai, ...)

■ bridi 同士をつなぐ → .i + j + ○ (.ije, .ijonai, ...)

.ije = そして

※「しかし」は論理的には「そして」と同等。違いは、話し手のニュアンス(対比、逆接等々)だけで、それは談話系 → § 15-2 を用いる。

mi ba cliva le mi zdani .ijanai do klama le barja = 君がそのバーに行くなら、僕は自宅を出る。

mi prami do .iju do catra = 君が殺しをしようとも、僕は君を愛する。

■ bridi 中での selbri 同士をつなぐ → gi' + ○ (gi'e, gi'onai, ...)

mi batci gi' e darxi la ren. = 私はレンを噛み、叩く。(la ren. が batci と darxi それぞれの 2 位となっている)

■ 接続詞を尋ねる(「A か B どちらか」)

sumti : ji
tanru : je' i
selbri + sumti : gi' i

を接続詞の場所に置く。 → .e や .enai や na.e で答える。

jmina : x1 は x2 を x3 に加える
tadni : x1 は x2 を学ぶ/研究する
kelci : x1 は x2 (道具/方法) で遊ぶ

.i do djica lenu jmina loi ladru ji loi sakta le ckafi — .e = 「コーヒーに牛乳か砂糖どっちを加えたい?」—「どちらも」

.i do ti barda je' i xunre plise — .enai = 「これは大きいか赤いかどっちの林檎ですか」—「大きくて、赤くない(前者)」

.i do ba tadni gi' i kelci — na.enai .i .ai mi ba sipna = 「君は勉強するのか遊ぶのか」—「どちらでもない。寝るつもりだ。」

■接続詞の否定 na や nai を接続詞の前後に付ける。

- A na.e B : A でなくて B
- A .enai B : A であって B でない
- .inaja : ~ならば~だ (ijanai 「~だ、~ならば」と比較せよ)

■先行する接続詞

g - A gi B : 接続詞を先行表示する。

mi .e do = ge mi gi do = 私かつ君

※tanru では gu' - A gi B とする。 le gu' e barda gi xunre cukta = その大きく、赤い本

■非論理的接続詞 → 接続詞が何と何を並列しているのかを明確にするため、前者の終端子は原則付ける。

- joi : 前者と後者をひとつの群にする。 mi joi do klama le barja = 私と君(という群)はバーに行く。(私だけが行っても真な命題)
- ce : 前者と後者をひとつの集合にする。

mi cuxna pa da la mik. ce la ren. ce la rin. = ミク、レン、リン(という集合の)の中から一人の誰かを選ぶ。
(何かの中から選ぶとき、その対象は群ではなく集合)

ce' o : 付番集合の際に使う(例: アルファベット .abu ce' o by. ce' o cy. ce' o dy. ce' o .ebu ...)

- fa' u : それぞれに la mik. fa' u la ren. tavla mi fa' u do = ミクとレンは、それぞれ私と君と話す。
- bi' i : 何々と何々の間隔 mi falcru le mi pinsi vi le brijū ku bi' i le barja = 私は私の鉛筆を仕事場とバーの間で落とした。
- bi' o : ~から~の(順序に従った)間隔 li pavo lo' o bi' o li paxa = 14時から16時の間
li pavo lo' o bi' i li paxa 「14時と16時の間」だと、「14時~16時」と「16時~14時」の2つの意味がある。

•先行接続詞にもできる・・・ ○○ gi A gi B

■つなげてまとめる

「A かつ B もしくは C」は、「『A かつ B』もしくは C」なのか「A かつ『B もしくは C』」なのか？
「悪い音楽の雑誌」は、「悪い『音楽の雑誌』」なのか「『悪い音楽』の雑誌」なのか？

•ロジバンは左から(発語の順に)単語をまとめていく → デフォでは「『A かつ B』もしくは C」「『悪い音楽』の雑誌」になる。

•ke - ke' e : 修飾部をまとめる括弧的なもの

- { xlali zgike karni = 悪い音楽、の雑誌
- { xlali ke zgike karni ke' e = 悪い、音楽雑誌

※sumti を ke で囲む場合は、論理的接続詞の後でしか使えない。

•bo : その両隣を優先して繋げる

xlali zgike bo karni = 悪い、音楽雑誌

•tu' e - tu' u : 文全体を括弧する

.i mi klama .ijanai tu' e la mik. klama .ije la ren. klama tu' u = 私が行く か ミクが行き、レンが行く のどちらか一方のみだ。

※接続詞の先行版を使えば、曖昧さは出てこない。

ge A gi gonai B gi C = A かつ「B または C」

■間接疑問文

英語のようにするだけでは間接疑問文にはならない。

mi djuno ledu' u ma cilre la lojban. = 私は、誰がロジバンを学ぶことを知っているのか？

①zo' e kau を使う: mi djuno ledu' u zo' e kau cilre la lojban.

= 私は誰かがロジバンを学んでいることを知っている。そしてその誰かを私は知っている。

②ma kau を使う: mi djuno ledu' u ma kau cilre la lojban. = 私は誰がロジバンを学んでいるか知っている。

※ xo kau, je' i kau など、他の疑問語も同様に間接疑問文にできる。

■同等語 後続の sumti を取り込んで、selbri 化する。(いわゆる be 動詞と似た役割を持つ)

me :x1 は[sumti]のひとつだ。

la renas. me le mi ci mensi = レナは私の3姉妹の一人だ。

du :x1 は[sumti]と同じものだ。

le nanmu du la koutaros. = その男はコウタロウと同じものだ。=その男はコウタロウだ。

po' u :同格(限定)

la mik. po' u le pendo be mi vi zvati = 私の友人であるミクはここにいる。

no' u :同格(非限定)

la mik. no' u le pendo be mi vi zvati = ミクは、私の友人で、ここにいる。

■文の代 sumti

| | |
|-------|---------|
| di' u | 直前に言った文 |
| di' e | 次に言う文 |

※該当する文を le du' u - kei で包んで sumti 化したもの、と考えればよい。

mi na nelci lo plise .i le mi mamta djuno di' u = 私は林檎が好きではない。私の母はそのことを知っている。

di' u は mi na nelci lo plise を事実抽象化(du' u)して sumti 化したもの

ko' a pu cusku di' e .i ko' a xagji = 彼は次のようなことを言った。彼は腹が減っている、と。

di' e は ko' a xagji を事実抽象化(du' u)して sumti 化したもの

①物理的原因 「なぜ雨は降るの？」—「雲が泣くからよ」

物理的・機械的な原因を言うとき。

rinka : x1 は x2 を引き起こす → ri' a 「それを引き起こすのは～」

.i lenu lei dilnu cu klaku cu rinka lenu carvi = 雲が泣いていることが、雨が降っていることを引き起こす

.i carvi ri' a lenu lei dilnu cu klaku = 雨が降っているのは、雲が泣いているから。

②動機 「なぜミクは僕をぶったの？」—「君が髪の毛を引っ張ったからだよ」

人がそう行動したきっかけとなる原因を言うとき。(現象→動機→行動 の動機部分に着目)

mukti : x1 は x2 を引き起こす x3 にとっての動機となる → mu' i 「その動機となったのは～」

lenu do lacpu lei kerfa [pe la mik.] cu mukti lenu la mik. darxi do [kei la mik.]

= 君が(ミクの)髪の毛を引っ張ることは、ミクが君を殴るということを(ミクに)動機づける。

la mik. darxi do mu' i lenu do lacpu lei kerfa = ミクが君を殴ったのは、君が髪の毛を引っ張ったから(、それが動機だよ)。

③正当な理由 「僕はなぜ捕まったの？」—「君の行為が非合法だから」

基準や規則に適っているような理由を言うとき。

krinu : x1 は x2 を許容する正当な理由だ → ki' u 「それは～という正当な理由がある」

lenu le do zukte to' e se flalu cu krinu lenu do se kavbu

= 君の行為が非合法であるということは君が捕まる正当な理由になる。

do se kavbu ki' u lenu le do zukte to' e se flalu = 君は捕まるのは、君の行為が非合法だから。

④論理的必然 「なぜソクラテスは死んだの？」—「人はみな必ず死ぬからさ」

論理的にそうなるような理由を言うとき。

nibli : x1 は x2 を必然的に意味する → ni' i 「それを論理的に必然としているのは～」

lenu la sokrates. remna cu nibli lenu sy. mrobi' o = ソクラテスが人間であることは、彼が死ぬことを論理的に意味する。

la sokrates. mrobi' o ni' i lenu sy. remna = ソクラテスが死ぬのは、彼が人間だから。

• sumtcita は時制のように使える → sumtcita の副詞化

ko' a ni' i pu morsi = 彼は故に死んだ (ni' i zo' e = それを論理的に必然としているのは言わずもがな→「故に」)

• sumtcita に転換を施すと、意味が逆転する(厳密には元となる gismu の位が転換されてから sumtcita 化される)

seni' i ~ : その論理的必然の結果、～ (se nibli : x1 であるのは x2 であることから論理的に導かれる。)

la sokrates. remna seni' i lenu sy. mrobi' o = ソクラテスは人間であるから、彼は死ぬ。

seri' i ~ : そのことが引き起こしたのは～

semu' i ~ : それが動機づけとなって起こるのは～

• sumtcita に bo をくっつけることで、bridiをつなぐことができる → sumtcita の接続詞化

la sokrates. remna seni' ibo sy. mrobi' o = ソクラテスは人間である。だから、彼は死ぬ。

■理由の問い方

[sumtcita] + ma を用いる。 .i carvi ri' a ma = (物理的に)なぜ雨は降るの？

答え方は、le nu ~ 「～ということ」でよい。 lenu lei dilnu cu klaku = 雲が泣くから。

rafsi : lujvo を作るための短縮形。
すべての gismu に割り当てられている。

■ lujvo(合成語)

簡単に作れる lujvo に ①転換を用いた lujvo ②否定を用いた lujvo がある。(③ tanru の lujvo 化があるがここでは触れない)

※必ず母音で終わらせること(子音で終わる単語は cmene だけ 1 種)

※これら①②の lujvo の PS は、元の gismu の PS (を転換したなら転換したもの) と等しい。(③だとそうは行かない)

①転換を用いた lujvo → 転換+gismu を合成して、1 語の lujvo にする。

{ se dunda = x1(モノ)は x2(人)によって x3(人)に与えられる。
seldunda

転換 cmavo には合成語(lujvo)を作るための語(rafsi)が用意されている:

| | | | |
|------|------|------|------|
| se | te | ve | xe |
| sel- | ter- | vel- | xel- |

dunda の rafsi の dud か du' a を使ってもよいが、子音で終わってはいけなないので、今回使えるのは du' a だけで、seldunda は seldu' a ともできる。

禁止な子音連結がある。その場合は y を挟むこと。

- ① 同じ子音の連結 (ss, kk, ...)
- ② 有声子音と無声子音の連結 (sd, gf, cv, ...)
※ l, m, n, r はどの子音とも連結できる。
- ③ c, j, s, z は互いに連結禁止 (cj, cs, zc, ...)
- ④ "cx" "kx" "xc" "xk" "mz" の連結は禁止

y が使われるのは以下の4箇所のみ

- ① lujvo ② cmene
- ③ .y. 「ええと」 ④ アルファベット 「.y' y.」

lo tertcu 「必要の目的となること」(nitcu : x1 は x2 を x3(目的/行動)のために要する; x2 が x1 には必要)

lo ternu'e 「約束を交わした人」(nupre : x1(者)は x2(事)を x3(者)に約束する)

lo selte'a 「怖いもの」(terpa : x1 は x2 を恐れる/怖がる/に怯える; x2 は x1 をぎよつとさせる/脅す)

lo selcta 「見られるもの」(catlu : x1 は x2 を見る/見つめる/見入る)

lo selta'i 「疲れさせるもの」(tatpi : x1 は x2(事)によって疲労/疲弊している/疲れている)

②否定を用いた lujvo

| | | |
|-----------|------------|-----------|
| na'e (以外) | to'e (正反対) | no'e (中立) |
| nal- | tol- | nor- |

lo naljmi 「分かってはいない人」(jimpe : x1 は x2(命題)を x3(題目)について理解する; x1 は x3 がわかる)

lo nalkri 「信じてはいない人あるいは懐疑の人」(krici : x1 は x2(命題)を x3(題目)について信じる)

norselci'i 「関心がない」

nalselci'i 「惹かれたい」

tolselci'i 「退屈でいる」

(cinri : x1(事)は x2 の関心を惹く; x2 は x1 に関心がある)

nalveltu'i 「合意はしない点だ、論争点だ」

(tugni : x1(者)は x2(者/観点/側)にたいし、x3(命題)・x4(題目)について賛成/賛同/同意する)

★ 借用語(fu'ivla) lujvo では作れないような言葉・cmene より具体的な言葉

※初心者には作り方が煩雑で例外も多く難しいので、パスしてもよい。

・外来語はそのまま言えない(ロジバン内来語に変に解釈されてしまう)

・cmene と fu'ivla の違いの例: cmene → 「i phone」 fu'ivla → 「i phone という電話」

・作り方のひとつ:

基本語(gismu)の語尾を取ったもの+r (r が重なるなら n) +[借用したい言葉](子音で始め⁽¹⁾、母音で終える⁽²⁾)

(1)その語が母音で始まるときは、x や n を挟む。

(2)子音で終わる場合、母音を付け加える。規定はないので、直前の母音を繰り返すでもすればよい。

i phone → fonx(a) + r + xaifono → fonxrxaifono(≡i phone という電話)

■ 心態詞

・心態詞は、情感系 (UI1)、認識系 (UI2)、談話系 (UI3)、呼応 (GOI) 系 (いずれも具体的な指示内容に基づくもの)、修飾系 (他の心態詞に付いてその意味合に色づけする UI4, UI5 と、度合を示す CAI, NAI) のグループに分類できる。

・心態詞はその先行の語に係る。文頭に置いたときは、.i- 文全体に対する感情表現一となる。

※英語や日本語で副詞であるものが心態詞になっていることも多い。

※ § 8 で学んだ CAI ももちろん使える。前にも述べたが、cmavo 辞書で意味をしっかりと確認すること。

§ 8 ではモダリティな心態詞についてみた。ここでは、もっと純粋な感情表現について見ていく。

| | - | cu' i | nai | | - | cu' i | nai |
|-------|-------|-------|-----|-------|---------|-------|------|
| .ue | 驚愕 | 無動揺 | 覚悟 | .o' o | 忍耐 | 単なる許容 | 怒り |
| .u' e | 畏敬 | | 平凡 | .o' u | くつろぎ | 平静 | ストレス |
| .ui | 幸福 | | 不幸 | .ii | 恐怖 | 緊張感 | 安全 |
| .u' i | 愉快 | | 退屈 | .iu | 愛 | 中立 | 憎悪 |
| .uu | 哀憫 | | 冷酷 | .a' e | 警戒 | | 枯渇 |
| .u' u | 後悔 | 教訓 | 潔白 | .a' u | 関心 | 無関心 | 反発 |
| .o' a | プライド | 謙虚さ | 恥 | .ie | 同意 | | 不同意 |
| .o' e | 親密 | 孤立 | 隔たり | .i' a | 受容/OK | | 非難 |
| .oi | 苦痛/痛み | 問題なし | 喜び | .i' e | 承認/イイね! | 保留 | 不承認 |

cai > sai > 無 > ru' e > cu' i > nairu' e > nai > naisai > naicai

■ 少し特殊な心態詞 (UI4, UI5)

・se' i = 「自己本位に感じている」 → se' inai = 「他人についてその感情を持っている」 .uise' inai = よかったね

・dai = 「他人がその態度だと推測する」 .a' udai = 面白いだろうねえ! .uidai = 幸せそうだねえ

・pei : 相手の態度について尋ねる

.i pei le lunra cu blanu — .ue.ie = 「どう? 月が青いよ」「わあ! そうだね」

.i .u' ipei do farlu le pesxu — naicai = 「おかしいでしょ? 君が泥沼に落ちただなんて」「んなわけねーだろ!」

.e' apei mi te vecnu ti — .e' anai = 「これ買っていい?」「ダメ」

pei.o' u — .o' u = 「元気?」「元気だよ」

■ 認識系 (UI2) その内容がどこから来たものなのかを示す。(情報源やアイデア等)

・ § 8 で見たように、認識系の多くはモダリティを表す。ここではモダリティ以外の意味合いのある認識系を見てみよう。

| | | |
|-------|----------------|-----------------------------------|
| ja' o | つまり/要するに/したがって | 他者の情報やアイデアに対する話者の結論 (広義の推論や演繹) |
| ca' e | 定義すると/~とする | 発話時点で、その命題が真となる |
| su' a | 一般化すると/一般には | 他者の情報やアイデアを一般化したもの (広義の帰納やパターン認識) |
| ka' u | 文化的な意味で知っている | 社会の慣習・伝承・常識に基づいて知っている |
| se' o | 内的経験で知っている | 自分個人の内面的な経験 (夢/勘/悟り等) から知っている |

.oi le gerku cu batci mi — .i ja' o le go' i na nelci do = 「くそ、あの犬が俺を噛む」「てことは、君のことが好きじゃないんだろう」

. ca' e le re do cu simxu speni = 「(定義)二人はお互いに配偶者である」

su' a lo tsani cu blanu = 「一般に、空というのは青い」

se' o ko' a ba na klama = 「勘だけど、あいつは来ないよ」

※「ご飯に箸を立ててはいけない」というのは文化的タブーである。こういったものに ka' u を使う。

■談話系 談話全体として、その語・文がどういった意図で発言されたかを示す。〈UI 類 UI3〉

| | |
|-------|---------------|
| ku' i | けれども/しかし/対照的に |
| ji' a | 加えて/~/~/だって |
| mi' u | 同上 |
| po' o | ~/~/たった~/ |
| da' i | 「仮定」「反実」 |
| ki' a | 「何？」という困惑 |

mi pu klama le barja .iku' i do pu na zvati = そのバーに行ったけど、君はいなかった。

.ai mi dunda lo cukta do ji' a = 君にも本をあげよう。

mi prami do po' o — mi' u = 「君だけを愛してるよ」「私も」

.i da' i do zvati lenu la mik. sanga .inaja do tirna la melt.

= ミクが歌っているときに君がもし居合わせたら、メルトを聞いたろうに。

.i mi puzi te vencu la xadongas. — xadongas. ki' a = さっきハドンガスを買った。— ハドンガス？

■その他覚えておきたい談話系

| | — | cu' i | nai |
|-------|-------------|------------|-----------------|
| ba' u | 誇張 | 的確「ちょうど」 | 控えめに言っても |
| sa' e | 精確「正確に言うと」 | | 非精確「大体でいうと」 |
| ju' o | 確信 | 不確信/かもしれない | 無知 |
| ta' o | 逸脱 /ところで | | 回帰 /話に戻るが/なんにせよ |
| zu' u | 一方で | | もう一方で |
| zo' o | 冗談 | 退屈 | 冗談抜き |
| do' a | 寛大/まあいいか | | けちな/ダメダメ |
| je' u | 本当/まじで | | 虚偽 |
| mu' a | たとえば | 例を挙げるまでもなく | 例示終わり/等々 |
| ke' u | 反復/~/~/なんてば | | 展開/それでさ |

■ 呼応系<UI 類の COI・DOI>

・続けて(冠詞 la を付けない)名前を言うことができる(sumti や selbri でも構わない)。

(cmene のみを言うときは呼びかけのあとに「ピリオドを打つ」か「doi を挟む」)

coi. mik. = coi doi mik. = やあ、ミク

co' o la ren. = じゃあね、レン

coi le mensi = やあ、姉さん

coi mensi = やあ、姉さん

・端子は do' u …名前を続けて言わないときには端子を忘れないこと。(もしくは:i)

coi do' u la mik. pu cliva = やあ、ミクは去ったよ。

| | | | |
|----------|----------------|-------|----------------------|
| doi | 「ねえ」「なあ」 | be' e | 反応が欲しいとき「ねえ聞いている？」 |
| mi' e | 自己紹介「私は～です」 | re' i | 「もしもし」(伝達を受ける用意がある) |
| coi | 挨拶「やあ」「こんにちは」 | mu' o | 相手が喋る番のとき「どうぞ」 |
| co' o | 「さよなら」「じゃあね」 | ta' a | 口をはさむとき |
| ju' i | 注意喚起「ほら！」 | nu' e | 約束するとき |
| fi' i | 「ようこそ」 | pe' u | 要望を述べるとき(≡e' o) |
| je' e | 「分かった」「了解」 | vi' o | 要望をやろうとするとき「了解」「やるよ」 |
| je' enai | 「え?」「というと?」 | ki' e | 「ありがとう」(返しは je' e) |
| ke' o | もう一度繰り返して欲しいとき | fe' o | 会話を終えるとき |

■ 取り消し 言ったことを取り消して、修正する。

・si : 直前の1語を取り消す

mi dunda le cukta do si la mik. = 私は本を君に…じゃなくてミクにあげる。

・sisi : 直前の2語を取り消す

mi dunda le cukta do sisi mlatu la mik. = 私はその本を君に…じゃなくて猫をミクにあげる。

・sa : まとまった句を取り消す

「+++ A *** sa A ###」 = 「+++ A ***」を「+++ A ###」に修正

mi dunda le cukta do sa dunda le mlatu la mik. = 私はその本を君に…じゃなくて、猫をミクにあげる。

■ その他

・ni' o : 新しい段落

ni' o lo nanmu goi ko' a xabju le cmalu je xunre zdani = (小説の始まりで) ある男が小さな赤い家に住んでいた。

※ni' oni' oni' o は章の始まり、ni' oni' o は節の始まりを表す。

・ba' e : 次の語を強調

mi klama le ba' e barja = 私はその【バー】に行ったの。

・to...toi : 括弧

.i mi klama le barja to mi na djica lenu klama toi = 私はそのバーに行ったの(行きたくなかったけど)。

このテキストは次の点を改良していくつもりである：

- ・補遺の訂正、改良
- ・間制詞・相制詞の少し詳しい話(補遺にとどめるのがよさそうだが…)

今している計画としては、傍用問題集の作成である。基本語彙の充足、作文の実践を中心に問題集を作れたらと思っている。現時点で § 11 までは暫定的に完成している。

大きな変更にはなるのだが(そのため別途のテキストとなるかもしれない)、長文(中文)のあるものを書いていきたい。

語学書というのは大きく分ければ2つになるだろう：

- ・文法書(文法+例文という形のもの。リファレンスとしては有意義だが、少し無機質)
- ・学習書(文章+文法のようなもの。リファレンスとしては煩雑だが、文章があるので語彙習得に有用)

このロジバン・エッセンシャルはどちらを進むのか、という話である。序文でも書いたが、ここは「試食会」であるべきだ。とすれば、ロジバンの雰囲気をつかめる方式—より多く文章のある形—学習書—をとるべきだろう。

とりあえずこのような方針でこのテキストは更新されるだろう。

最後になったが、このテキストにおいて何かアドバイスがあれば、私にまで伝えてほしい。

twitter のアカウントとして@lojtan_bot がある。

補遺1 ～cmavo のカテゴリ—selma'o～

- ・文法的役割をもつ短い語を cmavo(構造語)という。brivla と cmene と cmavo でロジバンの語の種類は全部となる。
- ・cmavo はさらに selma'o というジャンルに細分化されており、「～類」「selma'o ～」という(PA 類や selma'o NU など)。
- ・selma'o の名前は、その代表的な語の大文字で表される(PA 類の代表的な語は pa—1である)。
- ・同じ selma'o に属する語は、文法的に同じ働きをする(もちろん意味は違う!)ので、あるひとつの語の用法を覚えれば、他の語の用法も習得したことになる。

| | | | |
|--------------|------------------------------------|-----|---------------------------------|
| digit/number | PA | 数量詞 | pa, re, no, su'o, ... |
| descriptor | LA LE | 冠詞 | la, le, lo, loi, lei, le'i, ... |
| abstractor | NU | 抽象詞 | nu, du'u, ka, ni, ... |
| pro-sumti | KOhA | 代項詞 | ko'a, ko'e, fo'a, ... |
| pro-bridu | GOhA | 代述詞 | go'i, ... |
| attitudinal | UI | 心態詞 | |
| emotion | UI1 | 感情系 | .e'o, .uu, ua, ... |
| evidential | UI2 | 認識系 | ba'a, ti'e, za'a, ... |
| discursive | UI3 | 談話系 | ku'i, ji'a, po'o, ... |
| modifier | UI4-5 | 修飾系 | |
| vocative | COI | 呼応系 | coi, co'o, je'e, ... |
| connective | A BIhI JOI GA GAhO GI GIhA GUhA JA | 接続詞 | .e, joi, bi'i, gi, ... |
| operator | NAhU NUhA PEhO BIhE FUhA VUhU MAhO | 演算詞 | |
| tense | PU ZA VA ZEH A VEhA VIhA FAhA KI | 間制詞 | pu, za, va, ze'a, ri'u, ... |
| aspect | ZAhO ROI TAhE FEhE | 相制詞 | ba'o, pu'o, co'a, ... |
| modal | BAI | 法制詞 | de'i, ti'u, ... |

■制詞

法制詞、間制詞、相制詞のことをまとめて制詞という。

① 法制詞：

新たな位を追加するような役割を持つ語のこと。BAI 類がその多くを占めるが、FIhO 類や FIhE 類もある。BAI 類には60ちよつとの語がある。「法」は自然言語では、日本語の「すべきだ、かもしれない、しなければならない・・・」のような、その命題の聞き手に対する態度や、話し手の意図を表すものだが、ロジバンではそういった意味では用いない。

② 間制詞：

いわゆる「時制」を空間にまで拡張したもの。時間も空間も基本的に「方向」「距離」「範囲」で規定される。空間の場合は「移動」も間制に入る。

③ 相制詞：

ある行為・現象が起点・継続・完了のどの位置にあるかを表す語のこと。

※相制詞で使えるものをここに書き留める。(補遺3を見ればより使い方は明快になろう)

・TAhE 類: 間隔を示す。

| | |
|-------|-----------|
| di' i | 定期的に/規則的に |
| ru' i | 継続的に |
| ta' e | 習慣的に |
| na' o | 典型的に |

(nai をつけると意味はもちろんながら逆転する。)

・ROI 類: 回数を示す。

| | |
|-----|----|
| roi | ～回 |
|-----|----|

mi pu reroi klama le zarci = 私は市場へ2回行った

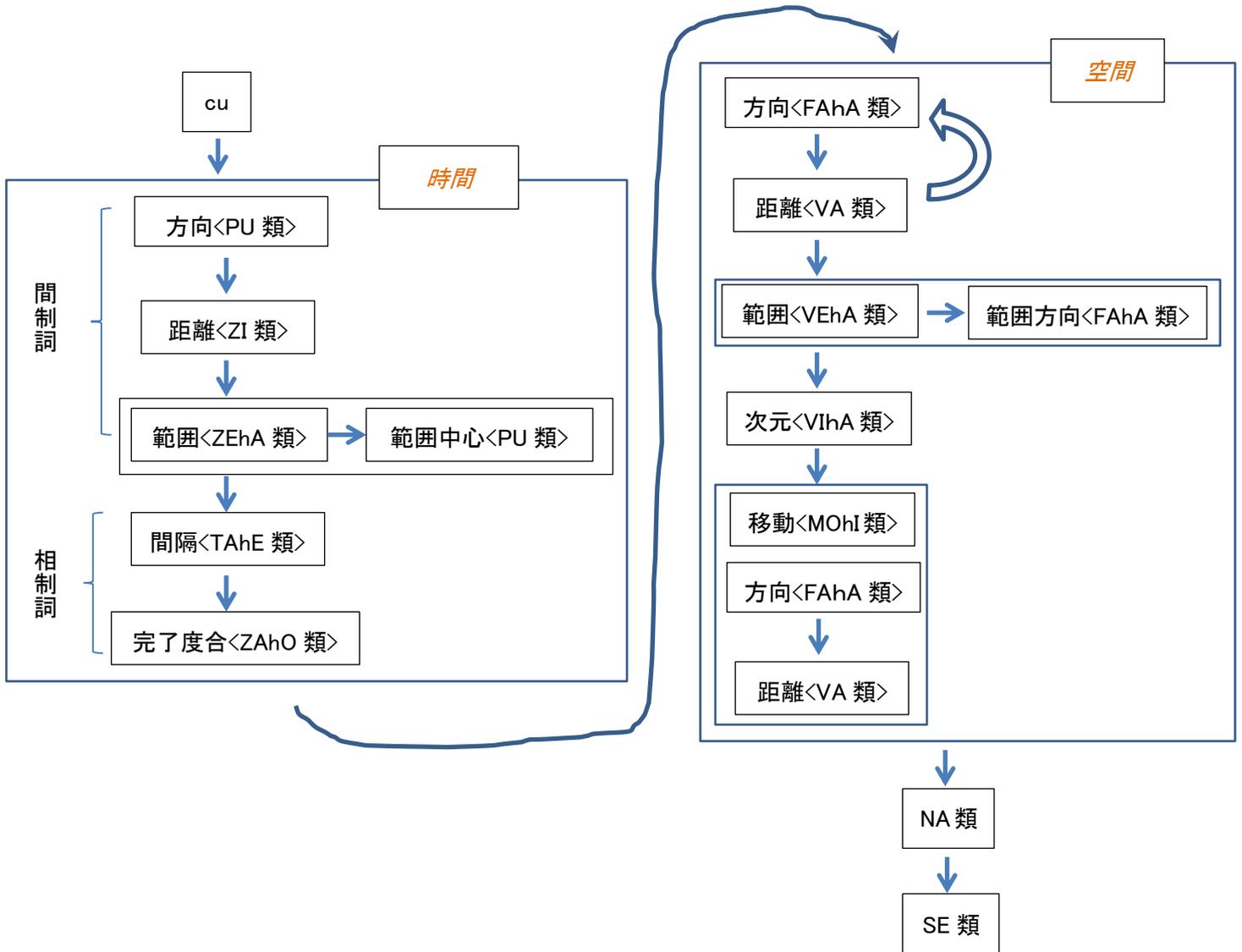
mi du' eroi klama le zarci = 私は市場へあまりに何回も行く

よく使うフレーズとして以下のものは覚えておいて良いだろう

| | |
|----------|------|
| roroi | いつも |
| so' eroi | たいてい |
| so' uroi | 何回か |
| so' iroi | 何回も |

補遺3 ~selbriの前に置くcmavoの順番~

selbriの前には、cuから始まり、間制詞(pu, ba, ca, ...), 否定(na)など多くのcmavoが置かれることが多い。その順序に少し頭を悩ます人もいると思うので、簡単にだがここにまとめる。特に間制詞と相制詞について触れた。



■BAI 類の sumtcita

sumtcita は法制タグともいい、いわゆる自然言語の前置詞(selbri に新たな sumti の位を追加する)の役割がある。sumtcita となるのは法制詞 BAI 類がほとんどだが、間制詞も sumtcita になれる。(相制詞はその性質上、sumtcita として働くことはない)。ここでは BAI 類についての簡単な説明と、特に使えそうなものをピックアップする。

BAI 類には親となる gismu が存在し、親の PS に従ってその意味が決まる。

また BAI 類に転換 cmavo(se,te,ve,xe)のついたものは、その親 gismu の PS が転換されたものが BAI 類になったと考える。

BAI 類の sumtcita に続く語がとる意味は親 gismu の1位の意である。

pilno: x1 は x2 (道具／機械／者)を x3 (目的)のために使う

> pi'o = ～を使用者として

> sepi'o = ～を使って

klama: x1 は x2(終点)に x3(起点)から x4(経路)を x5(方法)で行く／来る

> ka'a = ～を行く者として

> seka'a = ～を行き先として

> teka'a = ～を出発地点として

> veka'a = ～を移動経路として

> xeka'a = ～を移動手段として

※sumtcita の利点は、selbri の PS を「使わなくても済む」ことである。sumtcita だけで項を済ませてもいいのだ。

※何はともあれ、sumtcita の意味・用法は親 gismu に依っている。使い方に迷ったら gismu の使い方をまず習熟すべきである。

BAI 類には 60 あまりの語があるが、ここでは厳選して載せることにする。

| sumtcita | 意味 | +se の意味 | 親 gismu | 意味 |
|----------|----------------|--------------|---------|--|
| bai | に強いられて | を強いて | bapli | x1(性質／力)は x2(事)を引き起こす／もたらす |
| bau | ～語で | (話者)の言語として | bangu | x1 は x2(使用者)が x3(概念／命題／文字列)を表すのに用いる言語 |
| du'i | が同じくらい | と同等で | dunli | x1 は x2 と x3(性質)に関して同等 |
| du'o | によると | ということを知って | djuno | x1 は x2(命題)・x3(題目)を x4(認識体系)で知る |
| fi'e | が創って | を創って／著して | finti | x1 は x2 を x3(目的／機能)のために x4(既存要素)から創る／著する |
| ga'a | から観て／を観察者として | を観察して | zgana | x1 は x2(対象)を x3(方法)・x4(条件)で観察／観賞／鑑賞する |
| gau | (動作者)によって／～がして | (行動)をして | gasnu | x1(者)は x2(事)をする |
| ka'a | が行って／来て | を目的地として | klama | x1 は x2(終点)に x3(起点)から x4(経路)を x5(方法)で行く／来る |
| mau | が勝って／超えて | よりも多くて | zmadu | x1 は x2 よりも、x3(性質／数量)の点で、x4(度合)ほど卓越している |
| me'a | のほうが少なくて | よりも少なくて | mleca | x1 は x2 よりも、x3(性質)に関して x4(数量)ほど少ない |
| pa'a | が共に／が並行して | に並行して／と同じように | panra | x1 は x2 に、x3(性質)の相違を伴いながら、x4(基準)において対応する／並立的である |
| pi'o | が使って | を使って | pilno | x1 は x2(道具／機械／者)を x3(目的)のために使う／用いる |
| si'u | が助けて／が補助となつて | を助けて／の補助となつて | sidju | x1 は x2(者)を x3(行動／事)に関して助ける |
| ta'i | を方法／手段として | の方法／手段として | tadji | x1(過程)は x2(事)を x3(状態条件)のもと遂行するための方式／方法／用法／手段／マナー |
| tu'i | を場所として | の場所として | stuzi | x1 は x2(物／事)の本質的／恒久的な場所／現場 |

補遺5～語彙集～

ロジ辞書から初学者がまず覚えるとよさそうな単語 430 語ほど抜き出した。単語学習の発端になると幸いである。

青塗りの語句は傍用問題集で出てくる gismu である。

| 語句 | rafsi | | | 意味 | PS | 備考 |
|-----------|-------|------|------|-----|--|--|
| badri | | dri | | 悲しい | x1 は x2(事)について悲しい／落胆している； x2 は x1 を悲しませる:: | 「lo nu le va prenu pu morsi binxo cu se badri／その人の死んだことが悲しい」 |
| bajra | baj | | | 走る | x1 は x2(表面)を x3(肢)・x4(調子)で走る | 「mi sutra bajra／私は速く走る」 「le bajra cu jinga ja te jinga／その走者は勝者または敗者である」 |
| balcu'e | | | | 大学 | | banli + cukle |
| bandu | bad | | | 保護 | x1 は x2(物／状態)を x3(危険／脅威／可能性)から保護／守護する； x1 は x3 にたいして防御する | 「lo dikca dertu jorne cu bandu fi lo dikca jenca／アースは感電を防ぐ」 |
| bangu | ban | bau | | 言語 | x1 は x2(使用者)が x3(概念／命題／文字列)を表すのに用いる言語； x2 は x1 語を話す | 「.e'o lo jbobau ko bangu／ロジバンを使ってください」 |
| banli | bal | ba'i | | 偉大 | x1 は x2(性質)に関して x3(基準)で偉大／壮大／尊大 | 「barda」が客観的な大きさを表すのたいし、「banli」は主観的な大きさ。「la al,lax. cu banli／アッラーフは偉大なり」 |
| banxa | bax | | | 銀行 | x1 は x2(金融体系)・x3(機能)の銀行 | x2 は経営者も。「bu'u le banxa lo jdini cu se tolse'a／その銀行でお金を引き出す」 |
| barda | | bra | | 大きい | x1 は x2(性質)に関して、x3(基準)で大きい | 「lo'i ratcu cu barda／鼠の集合は大きい、鼠はたくさんいる」 「le barda naje cmalu ba'ambyta'e cu se dunda pe'u／大きいつづらではなく、小さいつづらをください」 |
| bartu | bar | | | 外部 | x1 は x2 の外／外部／外側 | 「lo bartu be lo zdani cu lenku／家の外は寒い(= lenku ne'inai lo zdani)」 |
| batci | bat | | | | x1 は x2(対象本体)・x3(対象箇所)を x4 で噛む | 「lo te batci be fa lo since co'a punli／蛇に噛まれたところが腫れてきた」 |
| bavlamdei | | | | 明日 | x1 は明日:x1 は x2(日)x3(基準)の次の日 | balvi + lamji + djedi |
| benji | bej | be'i | | 送る | x1 は x2 を x3(受け手)に x4(起源／送信元)から x5(方法／媒体)によって送る／届ける | [起源からの完全な断絶は含意されず、x2 の共有状態がありえる。] |
| bevri | bev | bei | | 運ぶ | x1 は x2(荷)を x3(終点)に x4(始点)から x5(道筋)を通して運ぶ | 「benji」と違い、x2 は x4 から断絶している。 |
| bilga | big | | | 義務 | x1 は x2(行為)を x3(協定／契約／常識)のために遂行する義務を負っている； x1 は x2 をしなければならぬ | |
| bilma | | | bi'a | 患う | x1 は x2(症状)の x3(病)を患っている | 「risna terbi'a／心臓病」 「sudga |

| | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|--------|---|---|
| | | | | | | selb'a／脱水症」 |
| binxo | bix | | bi'o | 成る | x1はx2にx3(条件)の下で成る／変身する | 「.ei binxo lo ka'e frili pilno be lo ka stace .e lo ka lazni／正直と横着とが自由自在に使へるやうにならなければならない」(山頭火『行乞記(二)』) |
| bitmu | bim | | bi'u | 壁 | x1はx2・x3を隔てる、x4(構造体)の壁／垣／塀／フェンス | |
| blabi | lab | | | 白色 | x1は白色 | |
| blanu | | bla | | 青色 | x1は青色 | |
| bloti | lot | blo | lo'i | 船 | x1はx2(客／荷)・x3(原動力)の船／ボート | |
| briju | bij | | | 職場 | x1はx2(従業員)・x3(所)の職場／事務所／営業所／局 | |
| bruna | bun | | bu'a | 兄弟 | x1はx2の、x3(血縁関係)による兄／弟 | |
| bukpu | buk | | bu'u | 布 | x1はx2(素材／種類)の布／織物 | |
| burcu | | bru | | ブラシ | x1はx2(用途)・x3(毛状物)のブラシ／はけ／モップ／毛筆 | |
| burna | | | | どぎまぎ | x1はx2(状況)においてどぎまぎする／緊張する／落ち着かない／きまりの悪さを感じる／当惑する | 「ckeji」と違い、恥ずかしさを含意しない。「xanka」と違い、未然／未知の事柄でなく現在知覚されている事柄にたいする心理的動揺を表す。 |
| cacra | | | | 時間 | x1はx2(数)・x3(基準)の時間 | 通常は「60分」。 |
| cadzu | | dzu | | 歩く | x1はx2(表面)をx3(肢)で歩く | |
| cakla | | | | チョコレート | x1はx2(種類)のチョコレート／ココア | |
| cando | cad | | | 怠惰 | x1は無動作／怠惰／怠けている／アイドリング状態 | 悲観的な意味合とは限らない。「暇」も。 |
| carvi | cav | | | 降る(ふる) | x1はx2(終点)にx3(始点)から降る／降り注ぐ；x1はシャワー状 | 或る総体から分離／分散して落ちること。 |
| catlu | | cta | | 見る | x1はx2を見る／見つめる／見入る | 「見極める」も。 |
| catra | | | | 殺す | x1はx2をx3(動作／方法)で殺す | |
| caxno | cax | | | 浅い | x1はx2(方向／性質)に関してx3(照合枠)・x4(基準)で浅い／浅いか／薄い | |
| cerni | cer | | | 朝 | x1はx2(日)・x3(所)の朝 | 「lo blotcana cu te cerni .i nu jvinu lo lunra／港は朝月のある風景」(山頭火『行乞記(二)』) |
| cersai | | | | 朝食 | x1(群)はx2(品／コース)の朝食 | cerni + sanmi |
| cfaga'e | | | | 気付く | x1はx2にx3(手段)・x4(状態)で気付く | |
| cfari | | cfa | | 始まる | x1(事／状態)は始まる／開始する | 他動の「始める」は「cfari gasnu」から「cfagau」。 |
| cidja | | dja | | 食物 | x1はx2(摂食者)のための食べ物／食糧／餌；x1はx2に栄養価を与える；x1は食用 | |

| | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|------|---|--|
| cifnu | cif | | | 幼児 | x1 は x2(生物種)の幼児／赤ちゃん | 「fi'o cifnu cismyku'o ku co'a tavla ／幼い醫で話しかけるよ」(山頭火 『行乞記(二)』) |
| cikna | cik | | | 目覚め | x1 は目覚めている | 「しらふ」「抜け目がない」も。 |
| ciksi | | cki | | 説明 | x1(者)は x2(事／性質)を x3(者)に x4(方法 ／様式)で説明／弁明／解説する | |
| cilre | | cli | | 習う | x1 は x2(命題)・x3(題目)を x4(情報源)から x5(方法)によって習う | 「ctuca」と違い、教師がかならずしも 含意されず、主体性が強調される。 |
| cinba | | | | くちづけ | x1 は x2(対象本体)・x3(対象箇所)にキス／ 接吻／くちづける | |
| cinmo | | oni | | 感情 | x1 は x2(感情)を x3 について覚える; x1 は感 情的／ムードに浸っている | |
| cinri | | | ci'i | 関心 | x1(事)は x2 の関心を惹く; x2 は x1 に関心が ある | |
| cinza | | | | 箸 | x1 は x2 のためのつまみ具／はさみ具 | 「箸」「やっこ」「ピンセット」「ペンチ」な ど。 |
| cipni | | cpi | | 鳥 | x1 は x2(種類)のトリ綱(ダチョウ／キジ／カモ ／カッコウ／オウム／ツバメ／フクロウ／ハト／ ツル／コウノトリ／ペリカン／フラミンゴ／ペンギ ン…目) | |
| cirko | | cri | | 失う | x1 は x2(物／者)を x3(所)で失う; x1 は x2 (性質)を x3(状況)で失う | 「見失う」も。 |
| ciska | | | ci'a | 書く | x1 は x2(文字列)を x3(媒体)に x4(道具)で 書く | |
| cisma | | | | ほほえむ | x1 はほほえむ／にやつく | 「cmila」と違い、笑い声が含意されな い。 |
| citka | | cti | | 食べる | x1 は x2 を食べる | |
| citno | cit | | ci'o | 若い | x1 は x2(基準)において若い | 時間的に浅いこと。 |
| citsi | | | | 季節 | x1 は x2(性質／周期特性)・x3(年)の季節 | 「周年記念日」「誕生日」なども。 |
| ckafi | kaf | | | コーヒー | x1 は x2(種類)のコーヒー | |
| ckali'a | | | | 起きる | x1 は起きる／ベッドから出る | ckana + cliva |
| ckana | | cka | | 寝台 | x1 は x2(素材)の、x3(者／物／事)を支える ための寝台／ベッド | |
| ckape | cap | | | 危険 | x1 は x2 にとって x3(条件)において危険; x1 はおっかない | |
| ckejj | kej | cke | | 恥じる | x1 は x2(事)について x3(公衆)にたいする恥ず かしさ／引け目を感じる | |
| ckire | kir | | | 感謝 | x1(者)は x2(者)に x3(事／性質)を感謝す る; x2 が x3 をしたことについて x1 はありがたく 思う; x3 であることはありがたい | |
| ckule | kul | | cu'e | 学習施設 | x1 は x2(所)で x3(科目)を x4(聴衆)に教え る、x5(者)によって営まれている教育機関／学 | 「小学校」「中学校」「高校」「大学」 「専門学校」「講習会」「塾」「研究 |

| | | | | | | |
|------------|-----|-----|------|------|---|---|
| | | | | | 習施設 | 所」など、知識を養える施設全般。 |
| ckusro | | | | 図書館 | x1 は x2(本)のある図書館 | cukta + sorcu |
| ckuzai | | | | 本屋 | x1 は x2(本)を売っている x3(営者)の本屋 | cukta + zarci |
| cladu | | | lau | うるさい | x1 は x2(観察基点)・x3(照合枠)においてうるさい／やかましい | |
| clani | | cla | | 長い | x1 は x2(次元／方向)・x3(照合枠)において長い | |
| clira | lir | | | 早い | x1(事)は x2(照合枠)において早い | |
| cliva | liv | | li'a | 離れる | x1 は x2 から x3(経路)によって離れる／発つ／別れる／去る； x1 は x2 を残す | |
| cmaci | | | | 数学 | x1 は x2(種類／表現内容)の数学 | |
| cmalu | | cma | | 小さい | x1 は x2(性質)に関して、x3(照合枠)において小さい | 「le barda naje cmalu ba'ambyta'e cu se dunda pe'u／大きいつづらではなく、小さいつづらをください」 |
| cmana | | | ma'a | 山 | x1 は x2(土壌成分)の山 | 「丘」「土手」も。 |
| cmene | | cme | me'e | 名前 | x1(文字列)は x2 の、x3(者)による名称； x3 は x2 を x1 と呼ぶ； x2 は x1 と呼ばれている | |
| cmila | | | mi'a | 笑う | x1 は笑う／笑い声をあげる | 原因や対象として x2 の追加も。 |
| cnino | nin | | ni'o | 新しい | x1 は x2(者)にとって、x3(性質)・x4(標準)に関して新しい | |
| condi | con | cno | coi | 深い | x1 は x2(性質／方向)に関して x3(照合枠)・x4(標準)において深い | |
| cortu | cor | cro | | 痛い | x1(者)は x2(箇所)に痛みを感じる； x2 が痛い | |
| cpacu | | cpa | | 入手 | x1 は x2(対象)を x3(起源)から入手する | 「lebna」と違い、元の所有者の権利を侵さない。「もらう」も。 |
| cpedu | | cpe | | 頼む | x1 は x2(事)を x3(者)に x4(態度／方法)で頼む | 「依頼」「懇願」「注文」「呼ぶ」など。 |
| creka | cek | | | 上着 | x1 は x2(素材)の上着／トップス | スリーブやボタンの有無は問わない。「シャツ」「ブラウス」「カーディガン」なども。 |
| crezenzu'e | | | | 練習 | x1 は x2(事／行為)の練習をする | certu(玄人)+ zenba(増加)+ zukte(行為) |
| crino | | | ri'o | 緑色 | x1 は緑色 | |
| crisa | cis | | | 夏 | x1 は x2(年)・(所)の夏季 | |
| critu | | | | 秋 | x1 は x2(年)・x3(所)の秋季 | |
| ctino | | | ti'o | 陰 | x1 は x2(物)・x3(光)の陰／影 | |
| ctuca | | ctu | | 教える | x1 は x2(生徒／門下生)に x3(命題)・x4(題目)を x5(方法)で教える | 「教育」「指導」「伝道」も。 |
| cukta | | cku | | 本 | x1 は x2(内容)・x3(著者)・x4(読者)・x5(媒体)の本／文献 | 「インターネット・サイト」なども。 |

| | | | | | | |
|------------|-----|-----|------|--------|--|---|
| cusku | cus | sku | | 表す | x1(者)はx2(内容)をx3(聴衆)にx4(媒体)で表す／言う／表現する | 口言葉に限らない。 |
| cutci | cuc | | | 靴 | x1はx2(素材)の靴 | 「ブル」「サンダル」「下駄」「草履」も。「足」としてx3の追加も。 |
| cuxna | cux | | cu'a | 選ぶ | x1はx2(選択肢)をx3(集合)から選ぶ | |
| dakli | | | | 鞆(かばん) | x1はx2(内容)・x3(素材)の鞆／バッグ／リュックサック | 「買い物袋」も。 |
| danfu | daf | | | 答える | x1はx2(質問／問題)に答える | |
| danlu | dal | | da'u | 動物 | x1はx2(種類)の動物 | |
| dansu | | | | 踊る | x1はx2(音楽／リズム)に合わせて踊る；x1はx2にノる | |
| dargu | dag | | | 道路 | x1はx2(終点)・x3(起点)・x4(経路)の道路／車道 | 移動に特化した、舗装された通路全般 |
| daspo | | spo | | 破壊 | x1(事)はx2を破壊する／破滅させる／倒す；x1は破壊的 | |
| denpa | dep | | de'a | 待つ | x1はx2(事)をx3(状態)ながら待つ、x4(事)の開始以前／再開以前に | x4は待ったあとに行われる事。 |
| dinju | dij | | di'u | 建物 | x1はx2(目的)のための建造物 | |
| dizlo | diz | | dzi | 低い | x1はx2(照合枠)・x3(基点)において低い | |
| djacu | jac | | jau | 水 | x1は水；x1は水溶性／含水の | |
| djedi | | dje | dei | 日 | x1はx2(数)・x3(基準)の満日 | |
| djica | | dji | | 欲求 | x1はx2(事)をx3(目的)のために欲する／求める | 本能的欲求も。 |
| djuno | jun | | ju'o | 知る | x1はx2(命題)・x3(題目)をx4(認識体系)で知る | |
| do | don | | doi | あなた | | 代項詞。「聞き手／あなた／あなた方」。 |
| donri | dor | | do'i | 昼間 | x1はx2(日)・x3(所)の昼間／日中；x1は昼行性 | |
| dormidju | | | | 正午 | x1はx2(日)x3(場所)の正午 | donri + midju |
| dormijysai | | | | 昼食 | x1(群)はx3(品／コース)の昼食 | donri + midju + sanmi |
| drata | dat | | | 他 | x1はx2ではない何か、x3(基準)において；x1は他のもの | |
| dunda | dud | | du'a | 与える | x1はx2をx3(者)に与える／贈る／授ける | 支払いや返済の無い授与行為。x2は物だけでなく事や性質も。 |
| dunku | duk | | du'u | 苦悩 | x1はx2(事)について苦悩／苦悶する | 強い感情的苦痛。 |
| dunli | dun | | du'i | 同等 | x1はx2とx3(性質)に関して同等 | 特に性質／数量における等しさを表し、アイデンティティの同一は含意されない。同一性は「du」。 |
| dunra | dur | | | 冬 | x1はx2(年)・x3(所)の冬季 | |
| facki | fak | | fa'i | 発見 | x1はx2(命題)をx3(題目)について発見する；x1はx3(物)を見つける／探し当てる | 「pu facki lo du'u lo mi mamta cu zvati la kordoban.／私の母はコルド |

| | | | | | | |
|-------|-----|------|-------|---|--|---|
| | | | | | | バに居るといことがわかった」 |
| fagri | fag | | 火 | x1はx2(燃料)・x3(酸化料)による火／炎 | | 「o'i fagri snuti／火の用心」 |
| famti | | | おじ／おば | x1(者)はx2(者)・x3(血縁関係)のおじ／おば | | 「lo mi famti ma kau zvati sei na djuno／[おじ／おば]が行方不明だ」 |
| fange | | | 異質 | x1はx2にたいしてx3(性質)の点で異質／外来／別世界的／風変わり | | |
| farlu | fal | fa'u | 落ちる | x1はx2にx3から、x4(基準)において落ちる／降る | | |
| fengu | feg | fe'u | | x1はx2(者)にたいしてx3(事／性質)について憤慨している／怒っている | | |
| finpe | fip | fi'e | 魚 | x1はx2(種類)の魚 | | 脊椎動物亜門のうち、四肢動物以外のもの全て。 |
| finti | fin | fi'i | 創る | x1はx2をx3(目的／機能)のためにx4(既存要素)から創る／発明する／著する；x1は創作的 | | |
| flira | fir | | 顔 | x1はx2(本体)の顔；x1は表情的 | | |
| fonxa | fon | | 電話 | x1はx2(システム／ネットワーク)の電話端末／モデム | | |
| frica | fic | | 違う | x1はx2と、x3(性質)に関して違う／異なる | | |
| frili | fil | | 容易 | x1(事)はx2(者)にとってx3(条件)において簡単／容易；x2はx1をた易くこなす | | |
| frumu | | fru | しかめつら | x1はx2(者／事)に対してしかめつらをする／まゆを寄せる／難色を示す；x1はしかめつら | | |
| galtu | gal | ga'u | 高い | x1はx2(照合枠)・x3(基点)において高い | | |
| ganlo | | ga'o | 閉鎖 | x1はx2(経路)にたいして閉まっている | | |
| ganra | gan | | 広い | x1はx2(次元)・x3(基準)において広い／幅がある／ワイド | | |
| ganse | gas | ga'e | 感知 | x1(者)はx2(性質)をx3(手段)によって、x4(環境条件)のもと感知／感得する／感じ取る；x1はx2にたいして敏感／センシティブ | | |
| gasnu | | gau | する | x1(者)はx2(事)をする | | 「zukte」が意志に基づき目的を見据えた振舞いであるのたいし、「gasnu」は単に行動の主体性を表す。 |
| gerku | ger | ge'u | 犬 | x1はx2(種類)のイヌ科動物(オオカミ／イエイヌ／コヨーテ／ジャッカル／リカオン／タヌキ／キツネ等) | | |
| gidva | gid | gi'a | 案内 | x1(者／物／事)はx2(者)をx3(事)について案内する | | x1は案内者だが、x2の行動を制限／支配する指揮者(jatna)とは区別される。 |

| | | | | | | |
|--------|-----|-----|------|-------|--|--|
| girzu | gir | gri | | 組 | x1 は x2(共通性質)・x3(集合)・x4(関係)の組／チーム | 「房」「コレクション」「クラス」なども。「gunma」が動作主体としての群を焦点とするのにたいして、「girzu」は関係体としての組を表す。x3 は要素／成員の並列記述となる。 |
| glare | | gla | | 熱い | x1 は x2(基準)において熱い／暖かい／温い | |
| gleki | gek | | gei | 嬉しい | x1 は x2(事)に関して嬉しい／幸せ／幸福／上機嫌 | |
| glico | gic | gli | | 英語 | x1 は x2(性質面)に関して英語系(言語／文化／民族／地理) | |
| grusi | rus | | | 灰色 | x1 は灰色／グレー | |
| grute | rut | | | 果実 | x1 は x2(種類)の果実／フルーツ | |
| gugde | gug | | gu'e | 国 | x1 は x2(要素／成員)・x3(領域)の国 | |
| gunka | gun | | gu'a | 働く | x1 は x2(動作／行動)を x3(目的／目標)のために働く／労働／勤務する； x1 は労働者 | |
| gusta | | | | 飲食店 | x1 は x2(飲み物／食べ物)を x3(客)に提供する飲食店／レストラン／カフェテリア | |
| jaicpu | | | | つまむ | x1 は x2(対象本体)・x3(対象箇所)をつまむ | lacpu + jgari |
| janli | jal | | | 衝突 | x1 は x2 に衝突／激突する／ぶつかる | |
| janli | jal | | | 衝突 | x1 は x2 に衝突／激突する／ぶつかる | |
| jarbu | | | | 郊外 | x1 は x2(都市)の郊外／都市近郊 | |
| jarco | | | ja'o | 表示 | x1 は x2(性質)を x3(者)に見せる／表示／展示する | |
| jarki | jak | | | 狭い | x1 は x2(次元)・x3(基準)において狭い | |
| jbena | | jbe | | 生まれる | x1 は x2(産主)により x3(日時)のとき x4(所)に生まれる； x2 は x1 を産む | |
| jdari | jar | | | 固い | x1 は x2(力)にたいして、x3(環境／条件)のとき固い／硬い／堅い | 「頭が固い」「岩が硬い」「口が堅い」など。 |
| jdima | | | di'a | 価格 | x1 は x2 の、x3(買者)・x3(売者)による価格／値段 | |
| jdini | din | | di'i | 金(かね) | x1 は x2(発行源)のお金； x1 は金融 | |
| jeftu | jef | | | 週 | x1 は x2(数)・x3(基準)の週 | |
| jelca | jel | | | 燃える | x1 は x2(温度)・x3(気体)において燃える； x1 には可燃性がある | |
| jenca | jen | | | 驚愕 | x1(事)は x2 を驚愕／動転／気絶させる | 「spaji」と違い、心理的衝撃が含意される。 |
| jersi | | | je'i | 追う | x1 は x2 を追う／追跡する | 意志や意識は必ずしも含意されない。 |
| jetnu | jet | | je'u | 真実 | x1(命題)は x2(認識体系)において真実／本当 | tanru の修飾部として使えば「本当に～」など。 |
| jgari | | | jai | 掴む | x1 は x2(対象本体)・x4(対象箇所)を x3(x1 の部分)で掴む／握る | 「抱く」も。 |

| | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|----------|--|------------------------------------|
| jgita | git | | | 弦楽器 | x1 は x2(特性)の弦楽器 | 「ギター」「バイオリン」「ハーブ」「リュート」「三味線」など。 |
| jibri | jib | | | 職 | x1 は x2(者)の職／仕事； x2 は x1 に就職している | |
| jimpe | | jmi | | 理解 | x1 は x2(命題)を x3(題目)について理解する； x1 は x3 がわかる | |
| jinru | jir | | | 沈む | x1 は x2 に漬かる／浸かる／沈む／潜る | 比喩的に「没頭する」「夢中になる」も。 |
| jinsa | jis | | | 清らか | x1 は x2(汚れ)を x3(観点)において持っていない； x1 は汚れていない／清らか | |
| jinvi | jiv | | ji'i | 考える | x1 は x2(命題)・x3(題目)を、x4(根拠)により真であると考え； x1 は x2 だと思ふ | |
| jirlu'i | | | | 風呂 | x1 は x2 を x3(液体)の風呂に入れる | jinru + lumci |
| jitfa | jif | | | 偽(ぎ) | x1(命題)は x2(認識体系)において偽／虚構／非真実／うそ | |
| jmina | min | | | 加える | x1 は x2 を x3 に加える | 付加の結果として x4 も可能。 |
| jmive | miv | | ji'e | 生きている | x1 は x2(観点／基準)において生きている； x1 は生物／生体／有機体 | |
| jubme | jub | jbu | | 机 | x1 は x2(素材)・x3(脚／柱／台座)の机／テーブル／台 | |
| judri | | | | 住所 | x1 は x2 の、x3(体系)における住所／宛先 | 「E メールアドレス」も。このとき、x3 は「インターネット」など。 |
| jukpa | jup | | | 料理する | x1 は x2(食材)を x3(方法)で料理する | x3 はレシピなど。 |
| jundi | jud | | ju'i | 懇ろ(ねんごろ) | x1 は x2(物／者／事)にたいして懇ろ／注意深い／配慮がある／気を使っている | |
| junri | jur | | | まじめ | x1(者)は x2(事)に関してまじめ／真剣／厳か／熱心／本気 | |
| jupku'a | | | | 台所 | | jupka(料理する) + kumfa(部屋) |
| kabri | | | | コップ | x1 は x2(内容)・x3(素材)のコップ／カップ／タンブラー／マグ／茶碗／杯 | 「palta」と違い、持ち上げて飲食に使う容器。 |
| kacma | | | | カメラ | x1 は x2(光学的対象)を x3(媒体)に記録するカメラ | |
| kadno | | | | カナダ | x1 は x2(性質面)に関してカナダ系(言語／文化／民族／地理) | |
| kalri | kar | | | 開く | x1 は x2(経路)にたいして開いている | |
| kanla | kal | | | 眼 | x1 は x2(本体)の目／眼／視覚器官； x1 は視覚者 | カメラのレンズも。 |
| karce | | | | 車 | x1 は x2(客／荷)・x3(原動力)の車 | x2 は運転手なども。 |
| kargu | | | | 高価 | x1(物／性質／事)は x2(者)・x3(基準)にとって高価／高額／高級 | |
| karni | | | | 誌 | x1 は x2(内容)・x3(出版者)・x4(読者)の刊行物／雑誌／新聞 | |

| | | | | | | |
|----------|-----|-----|------|---------|--|----------------------------|
| kavbu | kav | | | 捕らえる | x1 は x2 を x3 (罫／拘束力) で捕らえる／捕獲／捕捉／逮捕する | 「ボール(x2)をキャッチする」も。 |
| kelci | kel | | kei | 遊ぶ | x1 は x2 (道具／方法) で遊ぶ | |
| kerfa | | kre | | 毛 | x1 は x2 (本体)・x3 (箇所) の毛／髪 | |
| klacpe | | | | 呼ぶ | x1 は呼ぶ／招集する／呼び出す x2 (人／組織／プログラム) を x3 (場所) へ x4 (方法／形態) で | klama + cpedu |
| klaji | laj | | | 街路 | x1 は x2 (所) における、x3 につながる街路／通り／回廊 | |
| klaku | kak | | | 泣く | x1 は x2 (涙)・x3 (理由) で泣く | |
| klama | | kla | | 行来 | x1 は x2 (終点) に x3 (起点) から x4 (経路) を x5 (方法) で行く／来る | |
| krici | | kri | | 信じる | x1 は x2 (命題) を x3 (題目) について信じる | 根拠無しを受容。 |
| krixa | kix | | ki'a | 叫ぶ | x1 は x2 (音) を叫ぶ | |
| kuldi'u | | | | 学校 | | ckule + dinju |
| kumfa | kum | | ku'a | 部屋 | x1 は x2 (構造) 内の x3 (壁／天井／床) で仕切られた部屋／室 | |
| kurji | kuj | | ku'i | 世話 | x1 は x2 (物／者／事) を世話する／面倒みる | 「後見人」「養護者」なども。 |
| kusru | kus | | | 酷い(むごい) | x1 (者) は x2 にたいして酷い／意地悪／不親切 | |
| lacri | lac | | | 依存 | x1 は x2 に依存して x3 (事／状態) の発生／保障／維持を求める； x1 は x2 を頼りに x3 を期待する [2] | |
| ladru | lad | | | ミルク | x1 は x2 (起源) のミルク／牛乳； x1 は乳性／酪農の | |
| laldo* | | | | 古い | x1 は x2 (基準) において古い／高齢／年寄り | 試験的 gismu。 |
| lalxu | | | la'u | 湖 | x1 は x2 (所) の湖／池／水たまり | |
| lazni | | | | 怠情 | x1 (者) は x2 (動作／仕事／努力／事) に関して怠情／怠ける； x1 は x2 を怠る | |
| lebna | leb | | le'a | 取る | x1 は x2 (物／性質) を x3 (者) から取る／得る／奪う／盗む／取り除く／没収／着服する [3] | 所有権の転移が含意される。 |
| lecydo'i | | | | 午後 | x1 は x2 (日)・x3 (所) の午後 | |
| lekmi'i | | | | 冷蔵庫 | x1 は x2 (物) のための冷蔵庫 | lenku + minji |
| lenku | lek | | | 冷たい | x1 は x2 (基準) において冷たい／涼しい [5] | |
| lerci | lec | | | 遅い(時期) | x1 (事) は x2 (基準) において時期的／時刻的に遅い [6] | 「masno／遅い(速度)」と異なる。 |
| lerfu | ler | | le'u | 文字 | x1 は x2 (文字体系) において x3 を表す字(文字／数字) | x1 は「la'e zo ...」「... bu」。 |
| limna | lim | | | 泳ぐ | x1 は x2 (液体) 中を泳ぐ／水泳する | |
| lisri | lis | | | 物語 | x1 は x2 (題目／筋書／教訓) の、x3 (作者) から x4 (聴者) への物語／説話 | 「伝説」なども。x3 は話者も。 |
| litru | | | li'u | 旅 | x1 は x2 (経路) を x3 (方法) で旅する； x1 は旅 | |

| | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---------|--|--|
| | | | | 人 | | |
| lojbo | lob | jbo | | ロジバン | x1はx2(性質面)に関してロジバン系 | |
| lumci | lum | | lu'i | 洗う | x1はx2をx3(洗剤)・x4(道具)で洗う | |
| lunra | lur | | | 月 | x1は地球の月; x1はx2の主要衛星 | 「mluni」の狭義。 |
| makcu | | | ma'u | 成熟 | x1はx2(性質)に関して成熟している; x1は成人／おとな | 「lo cmana rutrkaki po le cmana malsi zo'u za'o makcu / 山寺の山柿のうれたまゝ」(山頭火『行乞記(二)』) |
| mamta | mam | | | 母 | x1はx2の母親; x1は母性的 | 肉親とは限らない。 |
| manku | man | | | 暗い | x1は暗い／闇 | |
| mansa | | | | 満足 | x1はx2(者)をx3(性質)に関して満足させる; x2はx1に満足している | |
| mapku | map | | | 帽子 | x1はx2(素材)の帽子／冠／兜／ヘルメット | 頭に被るもの全般。 |
| mapti | mat | | | 相応しい | x1はx2にたいしてx3(性質)の点で相応しい／和合性がある; x1はx2に適する／合う | 「似合う」や「交換性がある」も。 |
| masno | | sno | | 遅い(速度) | x1はx2(事)に関して速度的に遅い／のろい／もたもたする | |
| masti | | | ma'i | 暦月 | x1はx2(数)・x3(暦)の月 | |
| melbi | mel | mle | | 美しい | x1はx2(審美者)にとってx3(性質)・x4(審美基準)において美しい／綺麗／麗しい／ハンサム／かわいい | |
| mensi | mes | | me'i | 姉妹 | x1はx2と、x3(血縁)によって姉妹関係にある; x1はx2の姉／妹 | |
| mentu | met | | me'u | 分 | x1はx2(数)分の時間間隔、x3(基準)において | |
| merko | mer | | | アメリカ合衆国 | x1はx2(性質面)に関してアメリカ合衆国／USA系(言語／文化／民族／地理) | |
| midju | mij | | | 中央 | x1はx2の中央／中心／中枢／真ん中 | |
| mikce | mic | | | 医者 | x1はx2(者)をx3(病気／怪我)についてx4(治療手段)で応接する医者／看護師 | 「衛生兵」や「産婆」なども。 |
| minji | | | mi'i | 機械 | x1はx2(機能／用途)の機械 | 自立的に稼動する機械全般。「仕掛」も。 |
| minra | mir | | | | x1はx2(物／放射)をx3(観察者／基点)にたいしてx4として反映する; x2はx1に反射する; x1は鏡 | x4は反射されているもの。 |
| mipri | mip | | | 匿う | x1はx2をx3から、x4(方法)によって匿う／隠す／秘密にする | |
| misno | mis | | mi'o | 有名 | x1(人／物／事)はx2(群)の間で有名 | 「人気」「セレブ」も。 |
| mlatu | lat | | | 猫 | x1はx2(種類)のネコ科動物(チーター／イエネコ／ヤマネコ／ヒョウ／ピューマ等) | |
| mo'icli | | | | 記憶 | x1はx2(命題)・x3(題目)をx4(情報源)からx5(方法)によって記憶する | morji + cilre |

| | | | | | | |
|-------|-----|-----|------|------|---|--|
| moklu | mol | | mo'u | 口 | x1はx2(本体)の口 | 比喩的に「入り口」「出口」も。 |
| morji | moj | | mo'i | 思い出す | x1はx2(命題)をx3(題目)について思い出す ／回想する | |
| mrilu | | mri | | 郵便 | x1はx2(郵便物／手紙／Eメール)をx3(終 点)にx4(始点)からx5(ネットワーク／システ ム)によって送達する | |
| munje | muj | | mu'e | 世界 | x1はx2(領域／分野)・x3(法則・原理)の世 界 | |
| munje | muj | | mu'e | 世界 | x1はx2(領域／分野)・x3(法則・原理)の世 界 | |
| mutce | | tce | | とても | x1はx2(性質)に関して、x3(極性)に対して凄 い; x1はとてもx2 | x3はプラス／マイナスなど。 |
| muvdu | muv | | mu'u | 動く | x1(物)はx2(終点)にx3(始点)からx4(経路) にわたって動く; x1は動的 | |
| nabmi | nam | | | 問題 | x1(事)はx2が遭遇した、x3(状況／課業)に おける問題; x1はx2に熟考を要する | |
| nanba | nab | | | パン | x1はx2(種類／原料／穀物)のパン | |
| nanca | | | na'a | 年 | x1はx2(数(初期設定では1年))年間、x3 (基準)で継続する; x1は年次 | x3は「地球の軌道」や「暦法」など。 |
| nandu | nad | | | 難しい | x1はx2にとって、x3(条件)のもと難しい／難関 | |
| nanla | | | | 少年 | x1はx2(年齢)・x3(基準)の少年／未成熟の 男 | セクシズムを避けるなら「verba」。 |
| nanmu | | | nau | 男 | x1は男(の人) | セクシズムを避けるなら「prenu」か 「remna」。 |
| nelci | nel | | nei | 好む | x1はx2(物／事)を好む／好き／気に入って いる | |
| nenri | ner | | ne'i | 中 | x1はx2の中(にある); x1は内部／内側; x2 はx1を内蔵する | |
| nicte | | cte | | 夜 | x1はx2(日)のx3(場所)における夜 | 拡張すれば「夜行性」も。 |
| nimre | | | | ミカン属 | x1はx2(種)のかんきつ類／ミカン属 | |
| ninmu | nim | | ni'u | 女 | x1は女(の人) | セクシズムを避けるなら「prenu」か 「remna」。 |
| nitcu | | tcu | | 要する | x1はx2をx3(目的／行動)のために要する; x2がx1には必要 | 客観的な必須を表す「sarcu」と違 い、個人的／主観的な必要を意味 する。 |
| nixli | nix | xli | | 少女 | x1はx2(年齢)・x3(基準)の少女／未成熟の 女 | セクシズムを避けるなら「verba」。 |
| notci | not | | noi | 覚え書き | x1はx2(題目)・x3(作者)・x4(読者)の覚え 書き／メッセージ／メモ | 「xatra」よりも、内容は簡潔で、受け 手は不特定。個人的な「メモ」の意で 使う場合はx4は無いものとされる。 |
| nupre | nup | | nu'e | 約束 | x1(者)はx2(事)をx3(者)に約束する | |

| | | | | | | |
|--------|-----|-----|------|------|---|------------------------------|
| nurma | num | | | 田舎 | x1はx2(地域)の田舎／農村; x1は田舎っぽい／牧歌的／“ダサイ” | |
| nuzba | nuz | | | ニュース | x1はx2(題目)・x3(情報源)の、x4(聴衆)へのニュース／新報 | |
| pacna | | | pa'a | 希望 | x1はx2(事)をx3(見込み)で希望する／願う; x2は望まれている | |
| palku | pak | | | ズボン | x1はx2(素材)のズボン／スラックス／パンツ (女性用) | |
| palta | | | | 皿 | x1はx2(素材)の皿 | |
| panka | | | | 公園 | x1はx2(共同体／政体／企業)・x3(目的)の公園／敷地 | |
| patfu | paf | | pa'u | 父 | x1はx2の父親 | 肉親に限らない。 |
| pelji | | ple | | 紙 | x1はx2(資源)の紙 | |
| pelxu | pel | | | 黄色 | x1は黄色 | |
| penbi | peb | | | ペン | x1はx2(インク)のペン・筆 | 使っていて元の形が変わらない筆記具全般 |
| pencu | pec | | pe'u | 触る | x1はx2(対象本体)・x3(対象箇所)をx4で触る | |
| pendo | ped | | pe'o | 友人 | x1(者)はx2(者)の友人; x1はx2にたいして友好的 | |
| penmi | pen | | pe'i | 会う | x1はx2にx3(所)で会う | |
| pensi | pes | | pei | 思慮 | x1はx2(概念)について思慮する／考慮する ／熟考する／思いを巡らす; x2は考え深い | |
| pezli | pez | | | 葉 | x1はx2(植物)の葉 | |
| pikci | | | | 請う | x1はx2(者)にx3(事／物)を請う／せがむ／懇願する／嘆願する | |
| pilno | | pli | | 使う | x1はx2(道具／機械／者)をx3(目的)のために使う／用いる | 「活用する」も。 |
| pindi | pid | | | 貧乏 | x1はx2(性質)に関して貧乏／貧しい／貧窮している | |
| pinsi | pis | | | 鉛筆 | x1はx2(素材)の鉛筆／クレヨン | 使っていて削れてくる筆記具全般 |
| pinxe | pix | | | 飲む | x1はx2(液体)をx3(容器／起源)から飲む | |
| pipno | | | pi'o | 鍵盤楽器 | x1は鍵盤楽器(ピアノ／ハーブシコード／シンセサイザー／オルガン) | |
| pixra | pir | xra | | 絵 | x1はx2(主題)・x3(作者)・x4(媒体)の絵／画／写真／造形; x3はx2を描いてx1を創る | 広義で「彫刻」も。 |
| plana | | | | 肥満 | x1はx2(基準)において太っている／肥満／でぶ | |
| pleji | lej | | le'i | 支払う | x1はx2(金／報酬)をx3(者)にx4(対価／商品／サービス)のために支払う | 特別な出来事のために褒美や謝礼を贈るのは「cnemu」。 |
| plise | | | | 林檎 | x1はx2(種類)のリンゴ属植物 | 通常は果実を指す。 |
| plixau | | | | 役に立つ | x1はx2にとってx3(基準)で役に立つ | plino + xamgu |

| | | | | | | |
|------------|-----|-----|------|------|---|---------------------------------|
| pluja | luj | | | 複雑 | x1はx2(性質)がx3(基準)において複雑／煩雑 | |
| pluka | puk | | pu'a | 快い | x1(事)はx2にとって、x3(条件)のもと快い／心地良い | |
| pluta | lut | | lu'a | 経路 | x1はx2(終点)・x3(起点)・x4(途中の点の集合)の経路／道筋 | |
| ponjo | pon | | po'o | 日本 | x1はx2(性質面)に関して日本／ジャポニカ系(言語／文化／民族) | |
| ponse | pos | | po'e | 所有 | x1はx2をx3(法／慣習)のもと所有する | |
| prenu | | pre | | 人 | x1は(心理学上の)人; x1は人格を有する | ヒト／ホモサピエンスとは限らない。 |
| preti | ret | | rei | 質問 | x1(文字列)はx2(題目)に関する、x3(者)からx4(者)への質問／質疑 | |
| prije | pij | | | 賢い | x1はx2(事)に関して、x3(基準)において賢い | |
| prina | | pri | | 印刷物 | x1はx2(媒体)・x3(装置)による印刷物／プリント | |
| pritu | | | | 右 | x1はx2に対してx3(照合枠)における右方／右側 | |
| prulamdei | | | | 昨日 | x1は昨日;x1はx2(日)x3(基準)の前の日 | purci + lamji + djedi |
| pulji | | | | 警察 | x1はx2(法／治安)を守る警察(官) | |
| punji | puj | | pu'i | 置く | x1はx2をx3(所)に置く／設置する | |
| purci | pur | pru | | 過去 | x1はx2(時点)よりも以前／過去; x1は先人 | |
| purdi | pud | | | 庭 | x1はx2(家族／共同体／農耕者)・x3(繁殖物／作物)の庭 | |
| ractu | | | | 兎 | x1はx2(種類)のウサギ目(もく)動物 | |
| ralci | rac | | | 繊細 | x1はx2(性質)に関して繊細／精巧／デリケート; x1にはx2の機微がある | |
| ranti | ran | | | 軟らかい | x1はx2(力)にたいしてx3(条件)のもと軟らかい | |
| ratcu | | | | 鼠 | x1はx2(種類)のクマネズミ属 | 「smacu／マウス」よりも大きなげっ歯類。 |
| rectu | rec | | re'u | 肉 | x1はx2(生体)の肉 | |
| relxilma'e | | | | 自転車 | x1はx2をx3(表面)・x4(原動力)で運ぶ自転車 | re(2) + xislu(車輪) + marce(輸送機関) |
| renvi | rev | | re'i | 耐え抜く | x1はx2(事)をx3(時間／期間)にわたって耐え抜く／辛抱する／我慢する; x1は長持ちする | |
| retsku | | | | 尋ねる | x1(者)はx2(内容)をx3(聴衆)にx4(媒体)でx5(題目)について尋ねる／質問する | preti + cusku |
| ricfu | rif | cfu | | 裕福 | x1はx2(性質)に関して裕福／豊か | |
| rigni | rig | | | 不快 | x1はx2(者)にとってx3(条件)において不快／不愉快／いまましい／吐き気をもよおさせる; x2はx1に愛想を尽かす／嫌悪感を覚える | |

| | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|------|------------------------------------|---|
| rinsa | | | | 挨拶 | x1はx2の到着／出発に際してx3(動作)で挨拶する | |
| rimni | rir | | | 養育 | x1はx2の育ての親／保護者／保育者／養育者; x1はx2を育てる | |
| rirxe | | | ri'e | 河川 | x1はx2(土地)のx3(流域)がx4(河口)に流れる河川 | |
| rismi | ris | | | 稲 | x1はx2(種類)のイネ科植物(米) | |
| risna | | | | 心臓 | x1はx2(本体)の心臓 | |
| rivbi | riv | | | 避ける | x1はx2(事)をx3(事)によって避ける／回避する／逃れる | 「遠回り」「迂回」も。 |
| roroi | | | | いつも | | 相制詞 |
| ruble | rub | ble | | 弱い | x1はx2(性質)・x3(基準)において弱い／ひ弱／虚弱／微弱／華奢 | |
| sakta | sat | | | 糖 | x1はx2(資源)・x3(成分)の砂糖／果糖／ブドウ糖／乳糖 | |
| salci | | sla | | 祝賀 | x1はx2(事)をx3(行動)で祝う／礼拝する | x3は「祝典」など。 |
| salta | | | | サラダ | x1(群)はx2(食材)のサラダ | |
| sance | | sna | | 音 | x1はx2が発する音; x2は音がする | |
| sanga | sag | | sa'a | 歌う | x1はx2(音楽)をx3(聴衆)に歌う／詠唱する | |
| sanli | | | sa'i | 立つ | x1はx2(所)にx3(脚／支え)で立つ | |
| sanmi | | | sai | 食事 | x1(群)はx2(品／コース)の食事／ごはん | |
| santa | | | | 傘 | x1はx2をx3から護る、x4(素材)・x5(支え)の傘 | x3は「雨」「日光」など。 |
| sarcu | | | sa'u | 必須 | x1(事)はx2(事)にとってx3(状態条件)のもと必須／欠かせない | 「ba'o sarcu lo nu mi za'u re'u dasni lo cucrUARAJI／私はまた草鞋を穿かなければならなくなりました」(山頭火『行乞記(二)』) |
| saske | | ske | | 科学 | x1(事実群)はx2(題目)・x3(方法論)の科学的知識 | 一貫した方法論によって得られる体系的知識全般。 |
| satre | | | sa'e | なでる | x1はx2をx3でなでる／愛撫する | |
| sazri | saz | | | 操作 | x1はx2をx3(目的)のために操作する | |
| sazysti | | | | 電源オフ | x1はx2のx3(動作／過程／状態)を終わらせる | sazri + sisti |
| sedycro | | | | 頭痛 | x1は頭痛を感じる | stedu + cortu |
| seicni | | | | 孤独 | x1はx2からの孤独感を覚える | sepli + cinmo |
| selju'o | | | | 知識 | x1はx2に保持されるx3(題目)x4(認識体系)の知識 | se + djuno |
| selsmu | | | | | x1(文字列／記号／表現)はx2をx3(解釈者)に対して意味する | se + smuni |
| senci | sec | | | くしゃみ | x1はくしゃみする | |
| senva | sev | sne | | 夢 | x1はx2(事)を夢見る; x2は夢想／幻想 | |

| | | | | | | |
|-------------|-----|-----|------|--------|---|--|
| sepli | sep | | sei | 分離 | x1 は x2 から x3 (区分／壁／間) によって離れている | |
| sicpi* | | | | 雨 | x1 は雨 | |
| sidju | | dju | | 助ける | x1 は x2 (者) を x3 (行動／事) に関して助ける | 「to'u ja'o tcima xamgu .inaja lo jikore cu se sidju / とにかくお天気ならば世間師は助かる」(山頭火『行乞記(二)』) |
| silna | | | | 塩 | x1 は x2 (資源) ・x3 (成分) の塩 | |
| simlu | | mlu | | らしい | x1 は x2 (性質) であるよう x3 (者) に x4 (状態条件) の下で見受けられる; x1 は x2 らしい気が x3 にする | |
| sipna | sip | | | 睡眠 | x1 は寝ている; x1 は眠る | |
| sirji | sir | | | まっすぐ | x1 は x2 ・x3 の間でまっすぐ／直線的／直接的 | 「zu'a cmana .i ri'u xamsi .i fo le pa sirji pluta fa lo litru cu klama / 左は山、右は海、その一筋道を旅人は行く」(山頭火『行乞記(二)』) |
| sisku | sis | | | 探す | x1 は x2 (性質) を x3 (集合) の中に探し求める／模索する | x2 が物なら tu'a で冠する。 |
| sisti | | sti | | 終了 | x1 (者) は x2 (動作／過程／状態) をやめる／中止／終了する | x2 は完了しているとは限らない。 |
| skami | sam | | | コンピュータ | x1 は x2 (目的／機能) のコンピュータ | |
| skina | kin | | | 映画 | x1 は x2 (内容) ・x3 (制作者) ・x4 (視聴者) の映画／アニメーション | |
| skudji | | | | | x1 (者) は x2 (内容) を x3 (聴衆) に x4 (媒体) で言わんとする | cusku + djica |
| smuni | mun | smu | | 意味 | x1 は x2 (文字列／記号／表現) の、x3 (者) が認識する意味／解釈; x3 は x2 を x1 と解釈する | |
| snime | | | si'e | 雪 | x1 は雪／雪原 | |
| so'eroi | | | | しばしば | | 相制詞 |
| solri | sol | | | 太陽 | x1 は x2 (惑星) の太陽／恒星 | |
| sorprekarce | | | | バス | x1 は x2 (乗客／運転手) ・x3 (動力) の(交通)バス | so'i + prenue + karce |
| spaji | paj | | | 驚き | x1 (事) は x2 にとって驚き／思いがけない／不意 | |
| spati | | spa | | 植物 | x1 は x2 (種類) の植物(草木／葉／花); x1 は植物性 | |
| speni | | spe | | 結婚 | x1 は x2 と結婚している／の配偶者、x3 (法律／規則／慣習) のもと | |
| spita | | | | 病院 | x1 は x2 (患者) ・x3 (病／疾患) のための病院; x2 は x3 のために x1 に入院する | |

| | | | | | | |
|-------|-----|-----|------|---------|--|---|
| spofu | pof | | po'u | 故障 | x1はx2(機能)に関して故障している／使用不可能 | |
| spuda | | spu | | 返信 | x1はx2(者／物／事)にx3(動作／発言)で返信する | |
| sralo | | | | オーストラリア | x1はx2(性質面)に関してオーストラリア系(言語／文化／民族／地理) | |
| stagi | | | | 野菜 | x1はx2(種類)の食用野菜 | 厳密には果物と堅果も含まれる。 |
| stali | | sta | | 留まる | x1はx2(場／性質／状態)に留まる | |
| steba | seb | | | 挫折 | x1はx2(事)について挫折／ストレスを感じる | 望むとおりに事が運ばないときに感じる煩わしさ。 |
| stedu | sed | | | 頭 | x1はx2(本体)の頭／頭部 | |
| stizu | tiz | | | 椅子 | x1は椅子／腰掛／ベンチ | |
| stuzi | tuz | stu | | 場所 | x1はx2(物／事)の本質的／恒久的な場所／現場 | |
| su'e | | | | | | |
| su'o | | | | | | |
| surla | sur | | | くつろぐ | x1はx2(動作)に関してくつろぐ／リラックスする | |
| sutra | sut | | | 速い | x1はx2(動作／事)に関して速い／すばやい／敏速／俊敏 | 「le lenku dilnu cu sutkla a'idai／寒い雲がいそぐ」(山頭火『行乞記(二)』) |
| tadji | | | | 方法 | x1(過程)はx2(事)をx3(状態条件)のもと遂行するための方式／方法／用法／手段／マナー | |
| tadni | tad | | | 学ぶ | x1はx2を学ぶ／研究する；x1は学生／研究者／学者 | 「cilre」と違い、より学術的／体系的／先鋭的な知識の追求を表し、それによる新たな発見が可能性として含意される。 |
| tamca | | | | トマト | x1はx2(種類)のトマト | |
| tanxe | tax | | ta'e | 箱 | x1はx2(内容)・x3(素材)の箱／カートン | 「ダンボール箱」も。 |
| taske | | | | 渴(かつ) | x1は(喉の)渴きを感じる；x1は渴きでx2を求める | |
| tatpi | | | ta'i | 疲弊 | x1はx2(事)によって疲労／疲弊している／疲れている | |
| tavla | tav | | ta'a | 語る | x1(者)はx2(者)にx3(題目)についてx4(言語)で話す／語る | 音声的とは限らず、「手話」も。 |
| taxfu | taf | | ta'u | 衣服 | x1はx2(身体部分／性別／種族)・x3(目的／機能)の衣服／服飾 | |
| tcadu | | tca | | 都市 | x1はx2(地域)・x3(政体)・x4(ヒンターランド)の都市／都会／みやこ／メトロポリス | x4は「港」など。 |
| tcana | | | | 駅 | x1はx2(交通／コミュニケーション／配給のネットワーク)の駅／局／ノード | |
| tcati | | | | 茶 | x1はx2(葉／原料)の茶／紅茶／緑茶 | |

| | | | | | | |
|----------|-----|-----|------|-------|--|--|
| tcica | tic | | | 欺く | x1(事／経験)はx2を欺いて／騙してx3(事／状態)をさせる; x2はx1に惑わされてx3をする | x3は行動や所信など。詐欺などの悪質性は必ずしも含意されない。 |
| tcidu | tid | | | 読む | x1はx2(文字列)をx3(表面／書物)から読む | |
| tcima | tim | | ti'a | 気象 | x1はx2(所／地域)の気象／気候／天候／天気 | 比喩的に「顔色」なども。「to'u ja'o tcima xamgu .inaja lo jikre cu se sidju／とにかくお天気ならば世間師は助かる」(山頭火『行乞記(二)』) |
| terpa | tep | | te'a | 恐怖 | x1はx2を恐れる／怖がる／に怯える; x2はx1をぎよつとさせる／脅す | |
| tilju | tij | | | 重い | x1はx2(基準／観点)において重い | 「lo bakni ke tilju selbei zo'u viska je badri／牛の重荷は見てかない」(山頭火『行乞記(二)』) |
| tirna | tin | | | 聞く | x1はx2(対象音声)をx3(環境音声)にたいして聞く; x2がx1に聞こえる; x1には聴覚がある; x2は可聴音 | |
| titla | tit | | | 甘い | x1はx2にとって甘い | 比喩的に「甘ったるい」も。 |
| titnanba | | | | ケーキ | x1はx2(穀物)からつくられたケーキ/クッキー | |
| tixnu | tix | | ti'u | 娘 | x1はx2(親)の娘 | 実の娘に限らない。 |
| tolcliva | | | | 到着する | x1はx2にx3(経由)で到着する | |
| tordu | tor | | to'u | 短い | x1はx2(方向)・x3(尺度)に関して短い | |
| trene | ren | | re'e | 列車 | x1はx2(荷／客)・x3(線路網／軌道)・x4(原動力)の列車／鉄道／電車／汽車／地下鉄 | 「モノレール」「リアモーターカー」も。 |
| tricu | ric | | | 樹木 | x1はx2(種類)の木／樹木／立ち木 | 生えている木。「lo vi jubme genai tricu gi mudri／ここにある机は、樹木ではないが木材でできている。」 |
| tsali | | tsa | | 強い | x1はx2(性質)に関してx3(観点)で強い | |
| tsani | tan | | | 空(そら) | x1はx2(所)の空／天空 | |
| tuple | tup | | tu'e | 脚 | x1はx2(本体)の脚 | 股間から足首までの、腿と脛の部分。 |
| vacysai | | | | 夕食 | x1(群)はx2(品／コース)の夕食 | |
| vajni | vaj | | vai | 重要 | x1(物／事)はx2(人／事)にとって、x3(性質／理由)に関して重要／大事 | |
| valsi | val | vla | | 言葉 | x1はx2(意味／効力)を有する、x3(言語)の言葉／語彙 | x2は辞書上の意味だけでなく心理上の効力なども。 |
| vanci | vac | | | 夕方 | x1はx2(日)・x3(所)の夕方／夕暮れ／晩 | 一般的な仕事の終わりから就寝までの時間帯。 |
| vanju | van | | | ワイン | x1はx2(果物成分)のワイン／葡萄酒 | |
| vasxu | vax | | va'u | 呼吸 | x1はx2(気体)を吸う／吐く | |
| vecnu | ven | | ve'u | 売買 | x1(者)はx2(品／サービス)をx3(者)にx4(価格／費用)で売る; x3はx2を買う | |
| vensa | ves | | | 春 | x1はx2(年)・x3(所)の春季 | |

| | | | | | | |
|----------|-----|-----|------|-------|---|--|
| verba | ver | | ve'a | 子ども | x1はx2(年齢)の、x3(観点)での子供 | 人間とは限らない。 |
| vi va vu | | | | | | |
| vimcu | vic | | vi'u | 除去 | x1はx2をx3から、x4だけ残して除去／控除する／差し引く | |
| vinji | vij | | | 飛行機 | x1はx2(荷／乗客)・x3(原動力)の飛行機／航空機／飛行船 | x3はプロペラやジェットなど。 |
| viska | vis | | vi'a | 視覚 | x1はx2をx3(状態条件)のもと視覚する；x1にはx2が見える；x1には視覚能力／光学的感知能力がある | x3は、空間の灯りや背景など、視覚できる対象を左右する条件。x1は光や色を感知するカメラなども。 |
| vitke | | | vi'e | 客 | x1はx2(者)・x3(所／事)の客；x1はx2・x3を訪れる | |
| voksa | vok | | vo'a | 声 | x1はx2(本体)の声 | |
| vorme | vor | vro | | 扉 | x1はx2・x3間の、x4(構造体)の扉／戸口／出入口／門戸／ドア | |
| xabju | | | xa'u | 住む | x1はx2(所)に住む／暮らす／棲息／生息する | 「.ausai mi xabju lo stuzi be lo glajau jinto／私はどうでも温泉所在地に草庵を結びたい」(山頭火『行乞記(二)』) |
| xagji | | | | 飢える | x1はx2に飢える；x1は腹をすかしている／おなかがへっている；x1はx2(燃料／栄養)の補充を必要としている | x1は人だけでなく車など機械も。 |
| xajmi | xam | | | 滑稽 | x1はx2(観察者)にとってx3(性質)の点で滑稽／おどけている | x1は芸人／コメディアンなど人の他、物や事も。 |
| xalbo | | | | 軽率 | x1はx2(事)に関して軽率／無思慮／浮ついている／不真面目 | |
| xalka | xal | | | アルコール | x1はx2(種類)・x3(起源／醸造方法)のアルコール | |
| xalni | | | | 慌てる | x1(者)はx2(事)に関して慌てる／恐慌する／狼狽する／パニック状態にある | |
| xamgu | xag | | xau | 良い | x1はx2にとって、x3(基準)で良い／好ましい | |
| xamsi | xas | | | 海 | x1はx2(領域／惑星)・x3(液体成分)の海／海洋 | 拡張すれば「大気／varxamsi」も。 |
| xance | xan | | xa'e | 手 | x1はx2(本体)の手 | |
| xanka | | | | 緊張 | x1はx2(事)について緊張／心配する；x1はx2が不安 | 心配という心理の条件としてx3の追加も。 |
| xatra | | | xa'a | 手紙 | x1はx2(者)へのx3(者)からのx4(内容)の手紙／Eメール | |
| xebni | xen | | xei | 憎む | x1はx2(物／者／事)を憎む；x1はx2にたいする怨恨を抱いている；x2は憎らしい | |
| xekri | xek | | xe'i | 黒色 | x1は黒色 | |
| xendo | xed | | xe'o | 親切 | x1(者)はx2にたいしてx3(行為)で親切／優しい | |

| | | | | | | |
|-------|-----|-----|------|-------|--|---|
| xenru | xer | | xe'u | 悔やむ | x1はx2(事)を後悔する; x1はx2を残念に思う | 既に行った事を悔やむのが「xenru」。時を問わず自分の行為について「罪」を感じるのは「zungi」。 |
| xlali | | sla | | 悪い | x1はx2にとって、x3(基準)で悪い／粗末 | |
| xrula | rul | | | 花 | x1はx2(種類)の花 | |
| xruti | | xru | | 戻す | x1(者)はx2(対象)をx3にx4から戻す／返す; x2はx3に戻る／帰る | 「私は家に帰る」の場合、x1もx2も「mi」となる。x1は略して「xruti mi lo zdani」とできる。 |
| xukmi | xum | | xu'i | 化学製品 | x1はx2(成分)・x3(純度)の化学製品／化学物質 | 「薬」も。 |
| xunre | xun | | xu'e | 赤色 | x1は赤色／クリムゾン | |
| zarci | zac | | zai | 店 | x1はx2(取引品)・x3(営者)の店／市場 | 「モール」も。x3は店員だけでなく客も含まれる。 |
| zbasu | | zba | | 造る | x1はx2をx3(素材)から造る／作る／工作する | |
| zdani | | zda | | 家 | x1はx2の(ための)巣／家／ねぐら／アジト | 拡張すれば「家庭」も。 |
| zdile | | zdi | | おもしろい | x1(事)はx2(観点)にとってx3(性質)についておもしろい／楽しい; x2はx1を楽しむ | |
| zgike | | zgi | gi'e | 音楽 | x1はx2に演奏／制作される音楽 | x2は者だけでなく事も。 |
| zifre | zif | | zi'e | 自由 | x1は自由である、x2(事／状態)になることにおいて、x3という条件で | 「自主性がある」の意味も。 mi zifre lo nu jamfu muvdu 「私は足を自由に動かせる」 |
| zukte | zuk | | zu'e | 行為 | x1はx2(行動内容)をx3(目的／目標)のために行為／実行する | |
| zunle | zul | | | 左 | x1はx2に対してx3(照合枠)における左方／左側 | |
| zutse | zut | tse | | 座る | x1はx2(表面)に座る／着席する | |
| zvati | | zva | | 居る | x1(物／事)がx2(事／所)に居る／在る | 本質的な所在でなく、一時的な所在。 |

